

高度外国人材の 日本企業就職支援事例集

■ 高度外国人材の日本企業就職促進プロジェクト事業



目 次

事業の報告

2 栃木県事業 事業内容／協力団体インタビュー／企業コメント／留学生コメント

6 三重県事業 事業内容／協力団体インタビュー／企業コメント／留学生コメント

他地域・大学・企業の取り組み

11 <北海道>
札幌商工会議所 事業内容／インタビュー

14 <静岡県>
静岡県留学生支援ネットワーク 事業内容／インタビュー

17 <広島県>
広島県留学生活躍支援センター 事業内容／インタビュー

20 <福岡県>
九州グローバル産業人材協議会 事業内容／インタビュー

23 <企業インタビュー>
株式会社ヤスヅ インタビュー

24 <大学>
国立大学法人 愛媛大学 事業内容／インタビュー

26 <大学>
学校法人 明治大学 事業内容／インタビュー

28 <企業インタビュー>
横浜油脂工業株式会社 インタビュー

外国人雇用サービスセンターの取り組み紹介

30 外国人雇用サービスセンター 事業内容／インタビュー

高度外国人材の 日本企業就職促進プロジェクト 事業の報告

平成24年度に外国人雇用サービスセンター（東京、愛知、大阪、福岡の4ヶ所に設置）が設置されていない地域として栃木県と三重県を選定し、高度外国人材の活用が進んでいない中小企業に対する支援や、日本で就労を希望する留学生を対象に地元企業への就職促進を支援する各種事業を実施しました。

2

栃木県事業

[事業内容](#) / [協力団体インタビュー](#) / [企業コメント](#) / [留学生コメント](#)

6

三重県事業

[事業内容](#) / [協力団体インタビュー](#) / [企業コメント](#) / [留学生コメント](#)

栃木県

■ 地域協議会の設置

〈協議会名〉 栃木県留学生就職支援協議会

〈協議会設置趣旨〉 留学生就職支援・採用に携わる知見者を参集し、栃木県において協議会を開催し、検討及び事業結果の取りまとめを行うことにより、効果的かつ円滑な事業の運営を行う。

〈協議会委員〉 宇都宮大学、作新学院大学、一般社団法人栃木県経営者協会(企業会員293社)、公益社団法人栃木県経済同友会(会員264名)、栃木県産業労働観光部、栃木労働局

〈協議会実施〉 全3回

■ 企業向け就職説明会の開催

〈日時〉 平成24年10月2日(火) 14:00～17:00

〈主催〉 栃木県留学生就職支援協議会

〈会場〉 ホテル ニューイタヤ 蓬莱の間(南館3階)

14:00～14:10	ご挨拶	栃木労働局職業安定部 職業安定部長 蛇走 喜彦 氏
14:10～14:40	栃木県における留学生の就職について ～外国人留学生の就職をめぐる留学生と 企業の実態と意識に関する調査結果 から見えるもの～	栃木県留学生就職支援協議会 委員長 宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター 副センター長 末廣 啓子 氏
14:40～15:10	外国人留学生の採用および雇用事例報告	マニー株式会社 執行役副社長 CFO 高井 壽秀 氏
～休憩10分～		
15:20～15:40	留学生から見た日本企業への 就職活動について	フタバ食品株式会社 企画部 王 奕文 氏
15:40～16:00		株式会社足利銀行 市場国際部 廣田 美帆(刘璠) 氏
16:00～16:40	外国人留学生のビザ手続き方法と 雇用に関する留意点	行政書士 桑田優事務所 桑田 優 氏
16:40～16:50	質疑応答	
16:50～17:00	事務連絡	

○当説明会には留学生採用に関心をもつ21社の企業と大学の参加がありました。栃木労働局職業安定部長蛇走喜彦氏からのご挨拶のあと、本協議会委員長である末廣啓子教授より栃木県内の留学生の就職状況と県内企業のグローバル化への期待と課題について講演が行われました。栃木県に愛着を感じ、地元企業への就職を希望している留学生は4割近くいるものの、就職に至るにはまだ厳しい状況にあり、日本人学生同様、キャリアプラン構築のために大学側のキャリア教育の整備が必要であること、また経済界にとってもグローバル化は避けて通れない問題であるものの、現実にはまだ真のグローバル化には至っていないこと、今後は企業側の外国人材活用の方針の明確化とともに、外国人社員を受け入れる体制も工夫が必要なのではないかということについて語られました。

○また留学生雇用を以前より行っている県内企業、マニー株式会社からの採用事例報告がありました。同社では平成22年から「採用の半分は外国人留学生」と定め、地元教育機関を中心とした採用を実施していること、その背景には異文化の受容やコミュニケーションスキルの向上、セールス活動の刷新があることが挙げられました。

○その後に県内企業に勤務している元留学生2名からの就職体験談がありました。就職活動を行う上で、学校や先生からの情報や企業紹介が特に有益であったこと、栃木県での就職を希望する留学生も多いものの情報は少なく、東京へ行かざるを得ず交通費等の出費がかさんだこと、県内の合同企業説明会や企業との交流の機会がもっと多くなれば、さらに県内留学生の就業機会も増えるのではないかと等の話がありました。

○さらに行政書士の桑田優先生より、留学生を採用する上で必要なビザ取得に関する基本説明などがありました。

○アンケートの結果からは来場者の評価は高いものでした。参加の理由としては約半数が外国人留学生の採用に関する情報収集と回答しており、留学生採用の潜在的な需要の高さが伺えました。留学生採用の際の留意点や就労ビザ取得に関わることなどの質問が出ました。



■ 留学生向け就職説明会の開催

〈日時〉平成24年11月13日(火) 16:15～18:15

〈会場〉宇都宮大学 基盤教育B棟1121教室

〈主催〉栃木県留学生就職支援協議会

〈後援〉大学コンソーシアムとちぎ

16:15～16:30	留学生の就職状況と内定獲得への心がまえ	株式会社オリジネーター 取締役 専務執行役員 工藤 尚美 氏
16:30～16:50	企業が求める留学生人材像	株式会社IDX 総務・経理部長 貞弘 司 氏
16:50～17:10		メルテックス株式会社 管理部 総務課 採用担当 清水 宏紀 氏
～休憩5分～		
17:15～17:35	就職成功への秘訣	足利工業大学 卒業生 日光金属株式会社 八十三 氏
17:35～17:55		宇都宮大学 卒業生 株式会社足利銀行 廣田 美帆(刘璠) 氏
17:55～18:10	質疑応答・意見交換	
18:10～18:15	事務連絡	

○当説明会には、栃木県内の大学や専門学校から57名の留学生の参加がありました。留学生の就職状況や、就職活動を始めるにあたっての心がまえなど就職活動の基本に関する講演のあと、「企業が求める留学生人材像」として、国籍に関係なく働くことへの意欲を持ち、長く活躍してくれる人材を求めていること、日本人とは違う視点からの発想、自発性、高いモチベーションなどを期待していること等、企業2社からの講演がありました。

○また栃木県内の大学に在籍し、県内企業に就職した2名の元留学生からは、就職に必要な情報収集方法(就職サイトの利用、学校の先生や先輩から生きた情報を聞く等)から内定を獲得するまでの話がありました。また後輩留学生へのアドバイスとして、不採用でも落ち込まないこと、大切なことは不採用理由を正面から分析し、改善して次に臨むことが成功への秘訣であること等生の話を聞くことが出来ました。

○アンケートでの評価では9割が参考になったという回答があり、特に企業人事担当者の採用についての考え方や日本企業で働く留学生OB・OGの成功事例は留学生の就職活動に対するモチベーションアップにつながったようです。また、今回のセミナーで実施した概論より詳細な面接対策や筆記試験対策などの講座を希望する留学生からの声もありました。



■ インターンシップ

〈実施〉

栃木県内企業3社、留学生 実施済み4名(実施予定2名)

〈受入れ先企業業種〉 商社、ホテル、食品メーカー

〈参加留学生〉 宇都宮大学、宇都宮共和大学

各企業において、業務の内容を学ぶとともに、企業担当者の同行営業や会場準備などの実習が行われました。受け入れ企業からは、実習期間中、熱心かつ積極的に業務に取り組み意欲的だったとの好評価を受け、また参加留学生からも日本の企業や社会を知る、大変貴重な体験になったと声をいただきました。

■ 合同企業説明会の開催(予定)

〈主催〉 栃木県留学生就職支援協議会

〈日時〉 平成25年1月23日(水)

〈後援〉 栃木労働局・大学コンソーシアムとちぎ

〈プログラム〉 第一部 合同説明会(ブース形式)

時間: 13:00～16:00

場所: 宇都宮大学 大学会館内 多目的ホール

第二部 本音で語ろう!企業との交流会

時間: 16:00～17:00

場所: 宇都宮大学 大学会館1階
カフェテリアフードプラザ

〈対象者〉 栃木県内在住、在学の大学生・大学院生・短大生・高等専門学校生・専門学校生・日本語学校生等。全ての学年の学生が対象。

〈説明会内容〉 ・県内企業ブースによる面談 15社程度

・就職相談コーナーブースの設置

・新卒応援ハローワーク

・行政書士による在留資格相談コーナーの設置

〈交流会内容〉 企業人事担当者と留学生の交流会

インタビュー

国立大学法人 宇都宮大学



国立大学法人 宇都宮大学
キャリア教育・就職支援センター
副センター長・教授
末廣 啓子 氏

Q 最初に栃木県内の留学生の就職の現状を教えてください。

大学・短大、高等専門学校に在籍する留学生は、平成24年5月現在、栃木県内に722人おり、そのうちの305名が宇都宮大学に通っています。私が行った調査では、卒業後の進路希望については、約半数以上が日本企業への就職を希望し、さらにそのうちの4割が栃木県内での就職を希望しています。住み慣れた愛着のある場所がいいということが数字に表れていますね。

一方、県内の中小企業101社を対象にした調査では、「これまで留学生の採用経験がある企業」は25%で、この数字は全国的な傾向と同じ水準にあります。また「今後採用見込みがある」と答えた企業は4割近くになります。ただ実際、留学生の就職は厳しく、求人数が少ない、とくに文系の学生には厳しいというのが現状と言えます。

Q 企業では、留学生採用の必要性は高くなっているのでしょうか。

海外展開をする企業は多くなっていると思います。しかし、海外展開の戦略のひとつとして、積極的に留学生を採用していこうという企業はまだ少数です。一方、国内限定の事業の企業でも日本人の代替的に採用し、日本人と同様の仕事ができればいいという企業も多くあります。例えば企業の中国進出のために、そのリエゾン役として仕事ができる中国人留学生を採用したとしても、一人ないし二人いればいいわけで、毎年採用があるわけではありません。グローバル化といっても、栃木県内は、まだまだ初期段階の企業が多いのが特徴です。

また、留学生採用の経験のない企業は、留学生を採用することへの不安、もしくはネガティブなイメージを強く持っています。「留学生は日本の雇用慣行に合わない」とか、「すぐ辞めてしまうのではないか」といった声が寄せられ、調査結果からも、すでに留学生採用の経験がある企業とでは明らかに違いが出てきており、採用経験のない企業がそうイメージしがちなのです。

Q 留学生の就職に対する意識はいかがですか。

留学生の側も、日本独特の雇用システム等を理解しないまま、有名企業だけにエントリーしたり、闇雲に決めてしまったりということが見られます。

前述の調査でも、昨今の留学生は、母国で高校を卒業して、すぐに来日する若い学生が主流で、強い勉学・研究意欲を持って留学してくるというよりは、視野を広げたいとか、日本のアニメが大好きで留学したという人が多い。彼ら自身、自分たちが何をしたいのか、将来をどう考えていけばいいかを悩んでいます。日本人学生に

キャリア教育が必要のように、留学生にもキャリア教育が必要だと思えますね。

そして企業も留学生も、まずお互いを理解をすることから始める必要があります。

Q そういう意味では、今回の事業が生きてくると考えられるのですか。

そうですね。雇用の受け皿になる企業は、これからグローバル展開は避けて通れないし、会社や地域の活性化を考えれば、留学生の採用は必要になるわけです。多くの企業にこのようなプロジェクトや合同企業説明会にぜひ参加をしていただきたい。企業と大学、そして行政が一堂に会して留学生採用を考えることはとても意味のあることです。とにかくやっと同じテーブルについてスタートすることができたことが、このプロジェクトの大きなポイントです。

Q 事業で何か工夫をした点はありますか。

1月に行う合同企業説明会の前段階として、企業向けに留学生採用セミナーを、留学生向けに企業セミナーを開催しました。いずれも通り一遍の内容ではなく、企業が参加するセミナーには留学生やそのOBにも登壇してもらい、彼らの生の声を聞いてもらう。留学生には企業の人事担当者の本音を聞いてもらうというように、お互いを深く知るための取り組みを行いました。お互いの垣根を低くして、わからないことを率直に聞き話すことに重点を置きました。セミナーは、マスコミも取り上げてくれたので、反響も大きく、合同企業説明会に弾みがついたと思っています。

その合同企業説明会のあとも、企業と留学生の交流会を行う予定で、肩肘張らずにざっくばらんにコミュニケーションが取れるようプログラムを組んでいます。

Q ぜひ引き続き、プログラムが継続できればいいですね。

その通りです。「継続は力なり」なので、このまま終わることなく、続けていきたいと思っています。そのために行政の力をお借りしながら、大学・企業が留学生採用に積極的に関わっていければと思います。さらに、大学としては留学生に対するキャリア教育、就職支援に一層力を入れ、グローバル人材の養成に取り組んでいければと思います。



日光金属株式会社
八 十三 (ハシサン) 氏

〈プロフィール〉
中国内モンゴル自治区出身。30歳。専門学校卒業後に2002年来日。日本語学校を経て那須大学(現・宇都宮共和大学)、足利工業大学工学部で学んだ後、2012年4月、栃木県矢板市の日光金属株式会社入社。

当社は鋳物業界にあって、耐熱処理治具、炉内金物を中心に、設計から製造販売までを手がける、平均年齢32歳のフレッシュな人材が揃う会社です。これまで販路は日本国内に止まっていたのですが、2013年にはカンボジアのプノンペンに鋳造工場が完成予定で、そこからアジアをはじめ世界各国に販路を広げるための人材を求めています。

実は、私は当社の外国人採用の一期生です。中堅企業ですが、ここから日本の高い工業技術を世界に広げたいと就職試験にチャレンジしました。私の長所は、モンゴル語、中国語、日本語に堪能なこと、負けず嫌いでどんなことも乗り越える自信があることです。私の実家は内モンゴルの古都フフホトから3000キロ離れた場所にあり、小学校5年生から親元を離れ、寮生活をして過ごしました。来日してからも県内

の3つの大学で学び、その間に家庭を持ちました。会社もそんな私を評価してくれて、2012年4月に入社することができたのです。

内モンゴル自治区出身の私の顔立ちは日本人に間違われるほどで「限りなく日本人に近い外国人」と言われています(笑)。現在は社内の技術チームで勉強を重ね、カンボジア工場完成の際は、スタッフとして赴任したいと思っています。

11月に本プロジェクトの一環として実施された「栃木県・留学生向け就職説明会」では、元留学生として、後輩の皆さんに講演を行いました。日本企業への就職を考えている留学生に申し上げたいのは、日本人学生と同様に、SPIなどの試験対策もきちんと取り組み、そしてもちろん語学力を磨き、将来自分が必ず活躍できる企業を見極めて、就職活動してほしいということです。初めのうちは、内定が取れなくて落ち込むこともあると思いますが、失敗の原因について研究して、次にチャレンジしてほしいと思います。就職といっても、最終的には人と企業の縁です。留学生の皆さんに企業との良い縁があることを心より祈っています。

● ● 留学生のコメント

私の父が日本語教師なので、子どもの頃から日本を身近に感じていました。と言ってもアニメのイメージが強く、「セーラームーン」の印象がとて強く残っています。

大学卒業後は、日本企業に就職して、社会経験を積みたいと考えています。

本事業のインターンシッププログラムを3年生の秋に利用し、メッキなどの塗料を扱う商社で、4日間インターンシップを体験しました。事務処理では受注発注作業をしたり、タイやフィリピンとの取引を垣間見たり、棚卸しで在庫のカウントをしたりしました。また、先輩の営業担当者と一緒に、お客様や取引先の会社を訪問し、商社の営業を見学させてもらいました。

現在、就職活動を開始し、留学生対象の説明会には積極的に参加するようにしています。出来れば農学部で学んだことを活かして、化粧品か食品のメーカーで仕事をするのが理想です。

私のアピールポイントの一つは、チャレンジ精神に富んでいることです。日本に留学すること自体がチャレンジでした。現在は、下野市で中国語を教えています。初級と中級の2クラスを担当し、合計21人の生徒さんがいます。以前はボランティアで教えたり、プライ



国立大学法人 宇都宮大学 農学部
生物生産科学科応用生物化学コース3年
呉 亜涵 (ウヤハン) 氏

〈プロフィール〉
中国内モンゴル自治区出身。日本語教師の父親の勧めで日本語を勉強。2008年来日。福岡県の日本語学校を経て宇都宮大学農学部に入学。現在、学部3年生。就職活動中。

ベートレッシンで教えたりしていましたが、徐々に経験を積んで自信がつき、今のクラスを持てるようになりました。生徒が5人以下になるとクラスが無くなってしまっているので、生徒数を増やすためにも楽しい授業を心がけています。年配の生徒さんが多いせいか、みなさんととても優しく、自分で言うのもなんですが「いい授業だった」と評価して下さいます。

私にとって、日本は第2の故郷です。日本が大好きだし、日本を信じています。これからも周りの方々や仲良ししながら、豊かな社会経験を積んでいきたいと思っています。

三重県

■ 地域協議会の設置

〈協議会名〉 三重県留学生就職支援協議会
 〈協議会設置趣旨〉 留学生就職支援・採用に携わる知見者を参集し、三重県において協議会を開催し、検討及び事業結果の取りまとめを行うことにより、効果的かつ円滑な事業の運営を行う。
 〈協議会委員〉 四日市大学、鈴鹿国際大学、三重大学、株式会社

中尾製作所、マックスバリュ中部株式会社、法務省名古屋入国管理局、NPO法人愛伝舎、三重県商工会議所連合会(12団体)、三重労働局
 〈協議会実施〉 全3回

■ 企業向け就職説明会の開催

〈日時〉 平成24年9月19日(水) 13:30~16:30
 〈会場〉 津市新町プラザ洞津 高砂の間

〈主催〉 三重県経営者協会

14:00~14:10	ご挨拶	三重労働局 職業安定部長 山口 了子 氏
13:30~14:00	高度外国人材の日本企業就職促進プロジェクトについての概要説明	三重県経営者協会 専務理事 横田 正典 氏
14:00~14:20	県内大学の留学生の状況・動向説明	四日市大学経済学部准教授 留学生支援委員 岡 良浩 氏
14:20~14:40		三重大学学生サービス課長 野々村 晴子 氏
14:40~15:00		鈴鹿国際大学キャリアシニアアドバイザー 米島 久雄 氏
~休憩10分~		
15:10~15:30	外国人材(留学生)を活用・採用している企業の事例紹介	株式会社中尾製作所 代表取締役社長 中尾 修也 氏
15:30~15:50		株式会社アバンセコーポレーション 事業企画部 営業推進グループ長 西村 英継 氏
15:50~16:20	新しい在留管理制度について	名古屋入国管理局 就労審査部門 統括審査官 山本 英輝 氏
16:20~16:30	質疑応答	

○当説明会には、三重県経営者協会会員企業を始め、海外に進出している、もしくは進出を検討している三重県内の企業に周知を行ったところ20社29人の参加がありました。

○三重労働局職業安定部長山口了子氏からのご挨拶のあと、三重県経営者協会横田専務理事より、本事業は地域における取組みとして、三重県内の特に中小企業に対する留学生採用支援と、日本での就労を希望する留学生の就職促進を目的として行われること、企業や留学生を対象とした説明会や合同企業説明会が実施されること等、事業についての説明が行われました。

○また三重県内の3大学からは、留学生の就職状況と動向報告があり、東京方面へ出向いて就職活動を行う学生も多く、県内留学生向けの合同企業説明会などを組織的に実施することが、今後有効であるとの報告がありました。

○県内企業ですでに留学生採用実績のある2社からは、求められる留学生像や活用方法等について講演がありました。株式会社中尾製作所からは日本人と同様の能力を持ち、かつ海外の販売拠点で活躍してくれる留学生を求めていること、また株式会社

アバンセコーポレーションからは、アルバイトやインターンシップを通じて特性や能力などを見定め、留学生を採用した事例等のお話がありました。

○さらに名古屋入国管理局の山本英輝統括審査官からは、平成24年7月から始まった新しい在留管理制度について、従来のものとの比較などを交え、説明が行われました。

○これから外国人材の採用を検討するという中小企業も多く、採用方法や基準、その後の育成方法等についての質問もあり、関心の高さを伺わせました。



■ 留学生向け就職説明会の開催

〈日時〉 平成24年10月24日(水) 14:30～16:00

〈主催〉 三重県経営者協会

〈会場〉 三重大学 メディアホール

	開催挨拶	三重県経営者協会 専務理事 横田 正典 氏
14:30～15:00	留学生への期待	三重県商工会議所連合会 専務理事 井ノ口 輔胖 氏
15:00～15:20	留学生OBによる就活体験談 (成功例・失敗例など)	三重大学OB 李 恩 氏
15:20～15:40		三重大学OB 任 剛 氏
15:40～16:00	就職手続・就活スケジュールなど質疑応答	行政書士 米田 智彦氏

○当説明会には、三重県内の大学から40名の留学生の参加がありました。開会挨拶のあと、三重県商工会議所連合会井ノ口専務理事からは、「留学生への期待」と題し、日本の企業は異文化適応力を備え、日本語能力の高い、意欲ある留学生を求めるとともに、自国の事情も熟知し、国際的視野に立てるグローバルな人材を期待していることなどについてのお話がありました。

○また三重大学を卒業した元留学生2名からは、就職活動の経験を通じて学んだこと、例えば就職サイトなどからの情報収集や事前準備はもちろん、学生同士の情報交換や、学校の先生、先輩などに相談し、助言を受けることも大切であること、また自分を外側から知り、自らのアピール方法を体得することの重要性等、後輩留学生に向けてアドバイスがありました。

○最後はビザや就職活動の流れについて等、行政書士の米田先生と来場者による質疑応答が行われました。

○現在就職活動中の留学生はもちろん、今後の参考のために参加する熱心な留学生も来場し、アンケートでも好評価でした。



■ 合同企業説明会の開催



〈主催〉 三重県経営者協会

〈日時〉 平成24年12月11日(火)

〈場所〉 プラザ洞津 2階 高砂の間

〈プログラム〉 合同説明会(ブース形式) 時間:14:15～16:30
企業との交流会 時間:14:15～17:00

〈対象者〉 三重県内在住、在学の大学生・大学院生・短大生・高等専門学校生・専門学校生・日本語学校生等。全ての学年の学生が対象。

〈説明会内容〉 ・ 県内企業ブースによる面談7社(他、資料参加1社)
・ 企業談話ブースを設置し企業との交流4社
・ 留学生OBアドバイスコーナーの設置
・ 就職相談ブースの設置
・ 行政書士による在留資格相談コーナーの設置

〈交流会内容〉 企業人事担当者と留学生の交流会

合同企業説明会には県内企業が7社、交流ブースには4社が出展し、資料参加は1社でした。留学生の参加は45名で、平成24年度および平成25年度卒業の来場者が大半を占めました。今回採用には至らないものの、今後の留学生採用を検討している交流ブースの出展企業からは、いろいろな留学生と面談が出来、大変良い機会だったとの評価をいただきました。また、来場したほぼ全ての留学生から、入社したい希望企業が見つかったという回答が得られており、小規模ながらも意義のある説明会となりました。



インタビュー

三重県経営者協会



三重県経営者協会
専務理事
横田 正典 氏

Q 最初に経営者協会のお立場について教えてください。

私ども経営者協会は300社の会員とともに、県の総合経済団体として、企業経営、人事労務の諸問題に取り組んでいます。若い世代の人材育成については、大学生のインターンシップや就職のお手伝いをしています。とくに産官学の「就職情報交流会」では企業の人事・採用担当者と行政関係者及び大学・短大の就職担当者が多数参加し、就職情報交換と個別面談を行っています。これらの実績の上に立って、今回の留学生の日本企業就職促進プロジェクトも、大学や企業と連携を取りながら進めてまいりました。

Q 三重県内の留学生受入れの実情、また日本企業への就職に関する動向について教えてください。

三重大学、鈴鹿国際大学、四日市大学の3大学を中心に留学生を受け入れています。これまで日本企業への就職は、極めて少数というのが実情で、企業側も留学生の採用意識は高いとは言えず、留学生採用は北部の大手企業とその関連企業が中心でした。それでも少しずつ進む企業のグローバル化とともに「そろそろ留学生の採用を」と考えていた企業が、今回のプロジェクトに参加しています。

Q 企業の留学生に対する意識は、どのような感じですか。

まず、どんな留学生がいるのかという不安、また待遇面、受入れ体制、そして受入れ後に社内で上手くやっていけるのか、さらにいつまで働いてくれるか、2、3年で帰国してしまうのではないかとという心配があります。このプロジェクトを通して企業側の不安が少しでも解消されればと思っています。

Q 企業側の業務面での留学生に対するニーズは高まっていますか。

ご承知のように、グローバル化の波は大手企業だけではなく中小企業にも及んでいます。この地域の、ある日本酒のメーカーには、海外からの注文がインターネットでダイレクトに入ってきますし、「チャイナプラスワン」で、中国とともに東南アジアにも拠点を置くという中小企業も出てきました。そうすると現地の事情に通じているスタッフが必要になります。

また企業に外国人がひとりでも入ると、その会社自身がグローバル化します。それまでは日本語で十分だったのが、中国語を習ってみたり、外国語でかへ新聞をつくって情報交換をしたりと、とても良い効果が出ているようです。

Q 本プロジェクトにおける各事業の概要についてお聞かせください。

三重県の経済団体や学校機関、行政機関等で構成された協議会を設置し、各事業を実施しています。9月に行われた企業向け説明会では、県内留学生の就職動向や、実際に留学生採用を行っている企業からの事例報告、また就労にかかる在留資格取得について等、各機関の方々から採用を検討している企業に向けて講演を行いました。また10月には留学生向け説明会を実施し、企業がどのような留学生を採用したいか、また実際に就職して活躍している元留学生などの体験談なども聞いてもらいました。

さらに12月には合同説明会を行い、実際に面接を行った企業だけではなく、留学生の採用意欲はあるけれどまだ採用に踏み切れていない企業向けに、留学生とふれ合い情報交換を行える場を同説明会会場内に設置したところ、5社の参加がありました。説明会の様子を見学したいという企業や事業内容を記載したパンフレットの配布を行った企業も数社見られ、当説明会に対する企業の関心の高さが感じられました。

Q 合同企業説明会の開催にあたって、特に力を注いだ点はどのような点ですか。

これまで大学側の窓口は事務担当の先生でしたが、今回は日頃から留学生をよく知る先生ともコンタクトをとり、一人ひとりの留学生の適性や人柄に配慮して活動につなげてきました。また、面接会当日は、すでに日本企業へ就職している留学生OBのブースを設け、留学生が気軽に相談出来る場を作りました。留学生にとっては頼れる先輩たちの生の声を聞けたとのことで好評でした。

Q 今後の留学生の日本企業への就職について、どのような展望をお持ちですか。

私どもの会員企業でも海外へ出なければいけない、もしくは海外との取引が増えるといったことが多くなっています。また、企業の存続を考えたときにグローバル化の問題は避けて通れず、問題解決の近道が留学生の採用です。私たち経営者協会の採用活動もこれまでどおり日本人学生はもちろん、留学生にも力を入れていきたいと思っています。

Q 企業及び留学生への要望があれば、お願いします。

ビジネスのグローバル化は自然の成り行きですから、企業は前向きに留学生の採用、企業の国際化を考えていただきたい。そのためにも日本企業としての良心と誠実さを貫くことが、きちんと評

価されることにつながるはずで。

留学生については、少子高齢化の日本では、企業も地域も留学生のパワーを活用していきたいのです。県内の留学生は日本語も日本人と遜色なく話すことが出来、とても地域に溶け込んでいます。三重県には昔から、伝統的に伊勢参りに来る旅人をもてなす

「施行」という言葉があります。現代の三重の人たちの中にも、このDNAが残っており、外からきた人をもてなすという気持ちがあるのでしょうか。今後もその気持ちで留学生を受け入れるつもりですので、よろしくお願いたします。

企業 コメント



旭鍍金株式会社
取締役総務部長
佐藤 一雄 氏

〈会社プロフィール〉
旭鍍金株式会社
三重県津市雲出長常町1201番地の8
1948年創業 資本金1,000万円 従業員84人
<http://www.asahimekki.co.jp>

旭鍍金は金属表面処理加工のトータルソリューションカンパニーであり、三重県最大の表面処理の総合メーカーです。現在、当社は中国広東省江門市（ジャンメンシ）に新たに建設される鍍金専用の工業団地に、中国現地法人の設立準備を進めています。日本の優れたメッキ技術を中国に広めるために、中国国内で製造し中国のローカル・日系を含めた企業に製品を納めたいと考えています。

中国人留学生の採用については、現段階ではまだ検討中で、この合同企業説明会で直接、留学生の方とお会いしてお話を伺ってから判断したいと考えていました。できれば優秀な中国人留学生を採用して、当社でメッキの基礎知識を身

につけ、中国で営業活動を行い、活躍していただきたい。仕事における信頼関係を築き、実力がつけば、中国現地法人を任せられることも可能だと考えています。

実際に合同企業説明会で面談した留学生は、どなたも真摯な態度で臨んでいただき、とても好感が持てました。私が留学生たちに特に聞きたかったのは、「どんな仕事をしたいのか」、「将来は仕事面でどうしたいのか」、「将来は親元へ帰らなくてもよいのか」という3点でした。留学生からはそれぞれの事情に見合った答えをいただきましたし、中には「日本で仕事ができるなら郷里へ帰らなくてもよい」と答えた方もいて、彼らの日本企業への就職に対する熱い思いを頼もしく感じました。

広東省江門市の会社が、実際に稼働するのは2013年4月以降となります。その後しばらく様子を見て、留学生にどんな仕事をやってもらうのか具体的なイメージが出てきた段階で、前向きに採用を行いたいと考えています。

● ● 留学生のコメント

日本のアニメ、特に「ナルト」の大ファンで、アニメのキャラクターのように日本語が話せるようになったら「カッコイイ」と思ったのが、日本留学のきっかけです。来日直後、日本人は礼儀正しく、電車の中ではあまりに静かなことにびっくりしました。日本は治安が良く、買物もしやすく、毎日がとても楽しいです。私は空港で電気製品を販売するアルバイトをしています。さまざまな国の人に日本語、中国語、英語で対応しているため、語学力を活かして仕事をすることができ、同時に日本の家電製品が大好きになりました。

大学卒業後は日本企業へ就職したいと考えています。日本での生活も5年目になり、日本の社会や文化、日本人の考え方などを理解できたので、日本企業へ就職しても、スムーズに仕事ができると思います。日本の会社のシステムはとても素晴らしく、社員寮があったり、保険に入れたり、医療面も手厚いので、安心して働けることがとても魅力です。日本人と同じ福利厚生が整っていて、あたたかな社風の会社ならうれしいです。

私のアピールポイントの一つは、中国語、英語、日本語の3ヶ国



国立大学法人 三重大学 工学部
分子素材工学科3年
邱 澤 (キョウ タクガイ) 氏

〈プロフィール〉
中国広東省潮州市出身。高校卒業後、中国で日本語、シンガポールで英語を勉強後に来日。日本語学校を経て三重大学入学。現在、三重大学工学部分子素材工学科3年。中日ドラゴンズファン。

語が話せることです。また理系の学生ですから、チャレンジ精神が強く、新しいものをつくりだすことに興味があります。専攻は分子素材ですが、なかでも生物化学に興味があり、人口心臓や腎臓、血管、プロテインなどをつくってみたい。ただ医学だけでなく、生物化学はさまざまな分野での就職が想定できるので、強いこだわりはありません。自分の持っている知識と会社のノウハウを組み合わせれば、とてもいい仕事ができると思います。日本企業で一生懸命に働くことで、これまでとは違う日本社会を経験したいと思っています。

他地域・大学・企業の取り組み

先進的な留学生就職支援事業への取り組みを行っている
地域団体や大学、高度外国人採用の活用を積極的に実施している企業を取材し、
その取り組みの内容や実績、課題などをとりまとめました。

11 <北海道>
札幌商工会議所
事業内容／インタビュー

14 <静岡県>
静岡県留学生支援ネットワーク
事業内容／インタビュー

17 <広島県>
広島県留學生活躍支援センター
事業内容／インタビュー

20 <福岡県>
九州グローバル産業人材協議会
事業内容／インタビュー

23 <企業インタビュー>
株式会社ヤス中
インタビュー

24 <大学>
国立大学法人 愛媛大学
事業内容／インタビュー

26 <企業>
学校法人 明治大学
事業内容／インタビュー

28 <企業インタビュー>
横浜油脂工業株式会社
インタビュー

〈北海道〉

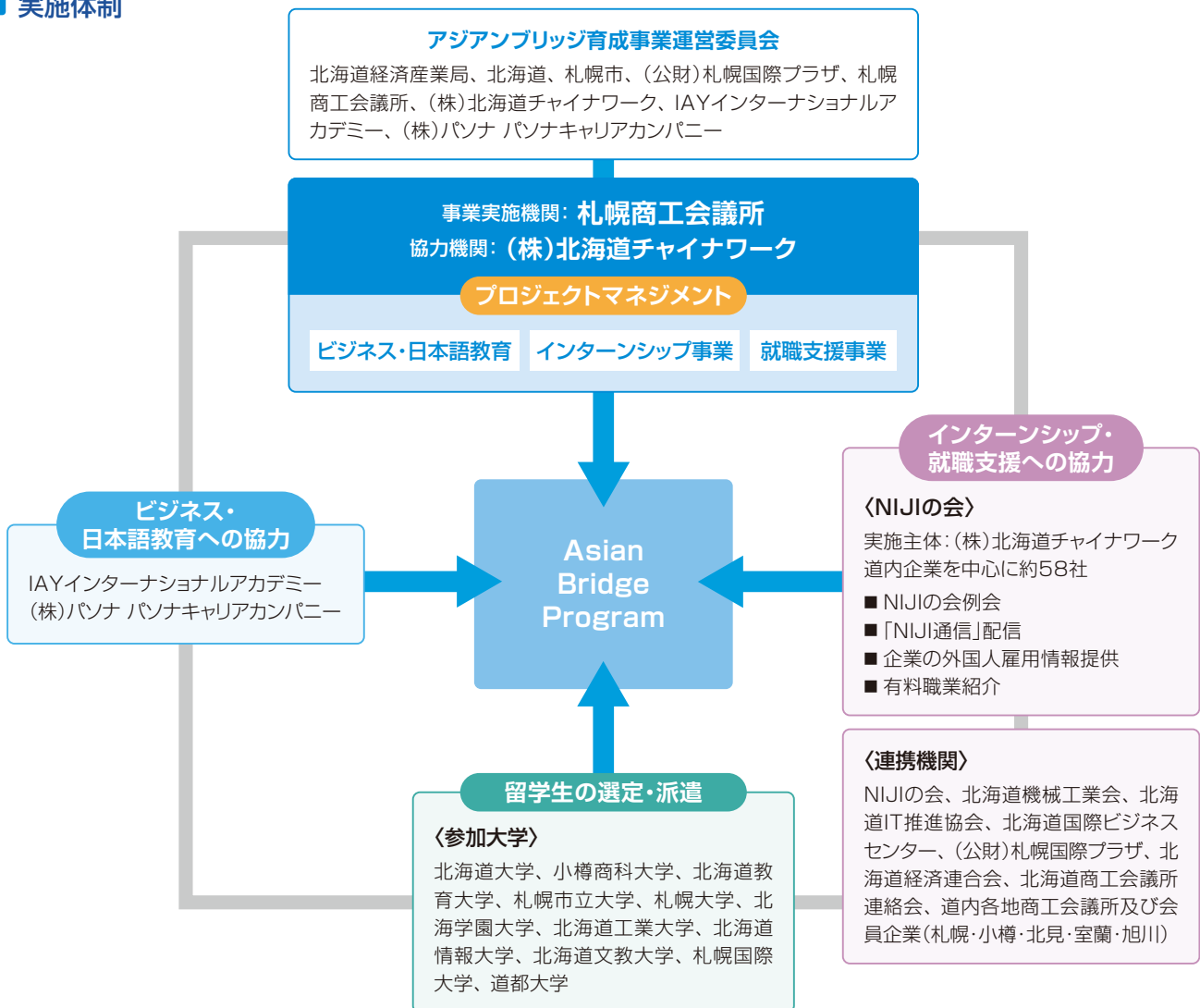
札幌商工会議所

■ 留学生支援事業開始の経緯

経済産業省・文部科学省による「アジア人財資金構想」の北海道地区の管理法人として、平成19年から4年間、留学生の日本での就職支援事業を実施し、平成23年度より当所自主事業である「札商アジアン・ブリッジ・プログラム」として行っています。札幌商

工会議所が事業主体となり、北海道経済産業局、北海道、札幌市などの自治体や地域の大学、留学生支援団体、民間企業の協力のもと運営しております。

■ 実施体制



■ 事業内容

北海道内の大学に在籍する留学生を対象として、参加要件を満たした応募者から30名程度を選抜して、就職活動セミナー、インターンシップ、就職支援等のプログラムを展開しています。

また、プログラムに参加していない学生も参加できる北海道唯一の留学生向け合同企業説明会の開催や留学生内定者向けの社会人基礎力研修などを実施しています。これまでにプログラムを修了した120名のうち68名が、日本企業又は日系企業に就職、

さらにそのうちの34名が北海道内の企業に就職をしました。

さらに、当プログラムの応援組織として、また北海道企業と外国人人材交流の場、学びの場として、「NIJIの会」を平成20年7月に設立し、北海道における外国人活用の環境を整備するとともに、優秀な外国人人材の道内就職を促進することを目的として情報配信やセミナー・交流会を開催しています。

札幌商工会議所

■プログラム参加要件

・対象者：

①北海道内の大学又は大学院に在籍する外国人留学生
※出入国管理及び難民認定法別表第一の四に定める在留資格「留学」を有すること。

※札幌アジア・ブリッジ・プログラム参加大学以外の大学からの参加も可とする。但し、大学が補完的に学内でビジネス日本語教育、インターンシップの履修、留学生向け就職支援などに前向きに取り組むことを条件とする。

②対象年次：学部3年生、修士1年生、博士2年生、他
※正規生として在籍している者に限る。

③対象年齢：35歳以下

・参加要件：

①募集年度から本格的な就職活動に入ること。
②日本語での授業参加に必要な日本語能力を有していること（日本語能力試験2級以上程度）。

※日本語能力については、札幌商工会議所もしくは関係機関が面接を実施し確認する。

③プログラムへの強い参加意思があること。

④北海道での強い就職意思があること。

⑤大学からの推薦を得られること。

・募集人員：

30名程度 ※選考にあたっては、面接を実施する。

□就職活動セミナー(7月～12月)



基本的には座学形式で実施しますが、グループ討議や模擬面接等を取り入れ日本での就職活動に必要な知識やスキルを養成します。就職活動のスケ

ジュールングや企業の採用情報の収集方法、エントリーシート作成のコツなどについても学び、留学生が就職活動にスムーズに入るための支援をします。また、Eメールで使用する日本語や入社後の電話対応とそれに伴う敬語について学ぶ「ビジネス日本語教育」も兼ねています。1コマ90分×24コマ(36時間)にて実施しています。

□社会人基礎力研修(日本の社会習慣に関する教育)(12月)

平成23年度にプログラムを修了した学部4年生、修士2年生、博士3年生、道内企業が内定者研修として参加させる外国人材(若

手外国人社員含む)等を対象として、会社組織についてなど日本企業の仕組み・習慣や社会人としてわきまえておくべき事柄を教育します。1コマ90分、1回2コマ×2回(6時間)にて実施しています。

□インターンシップ(8月～9月、1月～2月)

インターンシップを希望する学生を対象に、当プログラムの応援組織である「NIJIの会」会員企業を中心に受入依頼を行い実施します。また、留学生の資質・専攻と意向を踏まえた上で企業ニーズも調査し、双方の意向を踏まえてコーディネーターによる企業とのベストマッチングを行います。

□個別就職指導(随時)

希望する参加学生に対し個別カウンセリングや履歴書・エントリーシートの書き方指導、就職イベントの情報提供等を行います。

□合同企業説明会(アジア・ブリッジ・フェス)(1月)

北海道で唯一開催している、留学生に限定した合同企業説明会を開催します。道内企業を中心に20社～30社程度の参加と当プログラム参加学生、参加大学に在籍する留学生を対象として実施します。



□「NIJIの会」

隔月にて、外部から講師を招いて海外ビジネスに関するセミナー及び道内企業と留学生の交流会を行う「NIJIの会例会」を開催するとともに、北海道企業による外国人材活用の先進事例や海外ビジネスへの取組を紹介する「NIJI通信」を年4回メールにて配信しています。

また、外国人留学生に関する情報及び外国人雇用に関する法律、雇用に際しての留意事項などの情報を企業に提供します。

さらに優秀な外国人材を会員企業に紹介する有料職業紹介も行います。

札幌商工会議所



札幌商工会議所
国際部長
鈴木 伸明 氏



札幌商工会議所
国際部
齋藤 元子 氏

Q 北海道内企業の動向について教えてください。

北海道内の企業の今後の動向として大きく3つの傾向が見られます。1つ目は、道内企業の海外進出であり、諸外国との経済連携の進展や人口減少に伴う国内市場の縮小により、海外に販路を求めて進出する企業が今後増加することが予測されます。今後はこれまでの食品関連企業に加え、農林水産業用の加工機械等のものづくり関連企業の海外進出も見込まれます。

2つ目は、貿易取引の増加です。道内企業の海外進出が増え、さらに、日本と諸外国とのEPA締結が進むことで今後ますます貿易取引が増えることが予測されます。

3つ目は、外国人観光客の増加です。台湾・香港をはじめとするアジア地域からの観光客が近年増加しています。また、外交的な問題により、一時的に中国観光客数は落ち込みを見せてはいますが、今後回復し、長期的に伸びることが期待されます。さらに、平成24年10月からは新千歳とバンコク(タイ)、ホノルル(ハワイ)を結ぶ直行便が就航し、ますます道内の観光関連業界において、外国人観光客の受入れ体制の整備が求められています。

Q 合同企業説明会について教えてください。

札幌商工会議所は、平成16年度から中国人留学生と企業とのマッチングを行う交流を開催しており、それがベースとなっております。現在の合同企業説明会は平成19年度から開催しており、平成23年度は31社の企業と北海道内の大学に在籍する留学生98名が参加しました。道内では、留学生向けの合同企業説明会が民間を含めて他では開催されていないため、大学や留学生に好評でした。今後は、参加が採用につながるという実感を学生が持つことが出来れば、もっと参加学生は増えると思います。大学にも参加学生の募集の面で学内の留学生への告知についてご協力していただきました。大学からは是非今後も継続してほしいと望まれていますが、学生からもこういった機会がもっとほしいという要望が出ています。

Q 企業との連携について教えてください。

プログラム開始当時、北海道内の留学生を積極的に採用する企業の絶対数が少なく、留学生を採用する企業を増やす必要性がありました。企業を訪問して啓蒙活動およびヒアリングを行った際に、留学生を採用することに躊躇する企業が多く、その理由として留学生は日本語が話せるのか、あるいはすぐ辞めるのではないかといったマイナスのイメージが強いということがわかりました。

一方で、留学生も北海道内の企業を知らないため、就職志望は本州の企業が圧倒的に多い傾向にあります。お互いをよく知らないという状態を解決しなければ、最適なマッチングは望めないと

考え、留学生と企業の交流の場として平成20年8月に「NIJIの会」をスタートしました。現在は2ヶ月に1度のペースで例会を行っています。例会では、受付から司会進行まですべて留学生に担当させ、日ごろのビジネスや日本語学習の実践の場としても活用いただいています。また、道内企業の海外ビジネスや外国人採用を促すため、定期的に「NIJI通信」というメールマガジンの配信を行うことで、企業への情報提供を行っています。

「NIJIの会」は、現在約58社の協力が得られています。「NIJIの会」の成果としては、札幌市内のインターンシップは全て「NIJIの会」の企業で対応出来たことと、去年は「NIJIの会」会員企業13社に修了生を採用していただくことができました。

Q 大学や企業からの評判を教えてください。

道内の大学は、一部を除き、1大学あたりの留学生数が非常に少なく、各大学独自で留学生に特化した就職支援を行うことが難しい状況にあります。本プロジェクトは、ワンストップで留学生の就職支援を行うことで大学の負荷を軽減するとともに効率的に留学生の支援を行えることで大学側からの評価をいただいております。

参加留学生は、文化の違いから日本の就職活動への理解がないため、これまで活動時期の遅れや準備不足が見られ、日本企業への就職希望を持ちながら就職出来ない留学生が多かったのですが、本プロジェクトにおいて日本の就職活動のスケジュール、準備の方法、ビジネスマナー等の教育を行うことにより、日本人学生と同じように就職活動を行うための知識とスキルを養成することが出来ました。その結果、5割以上の就職率を残すことができ、留学生からの感謝の声をいただいております。

また、留学生からは、就職活動セミナーの面接の練習プログラムが好評です。面接の練習プログラムは、実際にロールプレイングを行いながら指導しています。また、その様子はビデオで撮影をし、映像を見て、客観的に振り返りを行うことでより効果的な学習が行えるよう工夫しています。

Q プログラムの課題と将来展望について教えてください。

道内の経済活性化に向けて、グローバルな舞台で積極的に活躍出来る人材の育成が必要となってきます。留学生の採用という手段もあるのですが、一方で日本人学生の国際化という問題もあります。

本プログラムとしても、これまで留学生の支援を行ってきましたが、次年度以降の事業で、日本人学生にも対象を広げ、留学生と日本人学生がワークショップなどを通じて、他国の文化を理解し、外国人とのコミュニケーション能力を育成することにより、国際的に活躍できる人材を育成し、道内企業への就職を支援することで地域経済の活性化に寄与したいと考えています。

〈静岡県〉

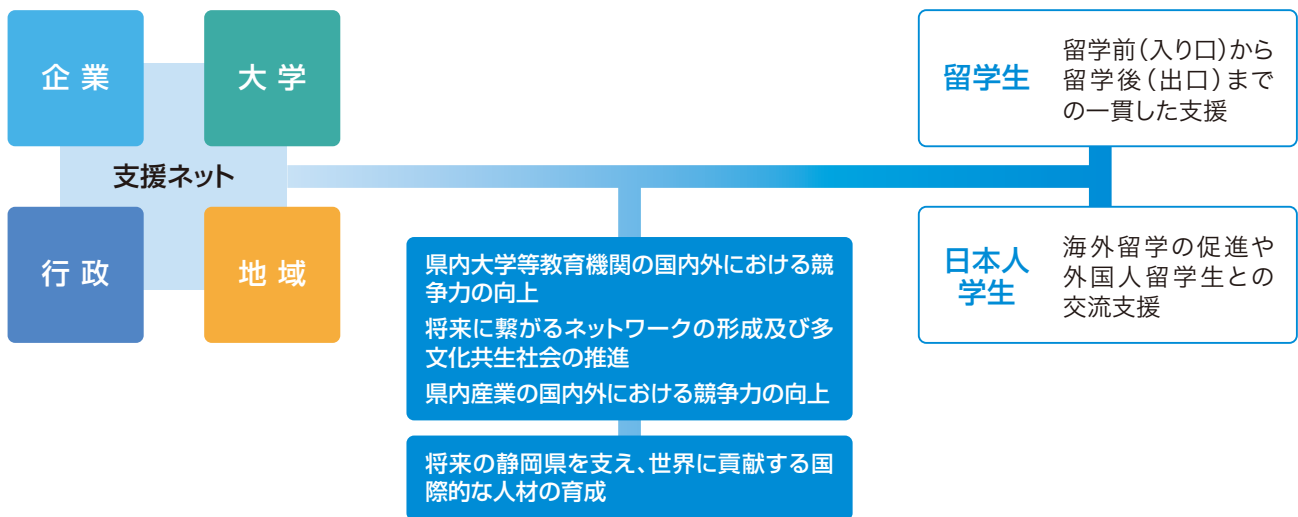
静岡県留学生支援ネットワーク

■ 留学生支援事業開始の経緯

国内外での人的交流が進む中、今後静岡県が社会・経済のグローバル化や少子高齢化などに的確に対応し、持続的に発展していくためには、国内だけでなく、世界、とりわけアジアの優れた人材を積極的に受け入れ、本県での定着を図り、静岡県の社会・経済・文化を支える人材として育成していくことが重要です。そこで、静岡県内の大学、地域社会、産業界及び行政が一体となって、留学

生に対し、留学前から留学中、さらには留学後まで一貫して支援に取り組むことにより、高等教育機関の国内外での競争力の向上、多文化共生社会の推進、産業の国内外での競争力の向上に寄与するとともに、将来の静岡県を支え、また、世界に貢献する国際的な人材を育成していこうとする理念のもとに、「静岡県留学生支援ネットワーク」を2011(平成23)年6月22日に設立しました。

■ 実施体制



□ 正会員

- ・静岡英和学院大学
- ・静岡英和学院大学短期大学部
- ・静岡県立大学
- ・静岡県立大学短期大学部
- ・静岡大学
- ・静岡文化芸術大学
- ・静岡理工科大学
- ・聖隷クリストファー大学
- ・東京女子医科大学看護学部
- ・沼津工業高等専門学校
- ・浜松大学
- ・富士常葉大学

□ 行政会員

- ・静岡県

□ 賛助会員

- ・静岡県国際経済振興会
- ・静岡県国際交流協会
- ・岸本工業株式会社
- ・株式会社SBSコミュニケーションズ
- ・株式会社オレンジハウス
- ・株式会社セント・リングス

□ 協力団体

- ・静岡県経営者協会

・静岡県市長会

- ・静岡県商工会議所連合会
- ・静岡県商工会連合会
- ・静岡県中小企業団体中央会
- ・静岡県町村会

□ 役員

- ・会長：静岡大学学長 伊東幸宏
- ・副会長：静岡県立大学学長 木苗直秀

■ 事業内容

〈広報・情報発信事業〉

①ウェブサイトの運営

静岡県への留学の興味を喚起する情報及び支援ネットワークが実施する事業等に関する情報を発信・提供するため、当ネットワークのホームページを開発・運営しています。

また、日本での就職を希望する留学生のために、就職活動を行うためのノウハウガイドとなる「外国人留学生のための就職GUIDE」の公開もしています。

あわせて、ホームページと連動したFacebook、Twitterでも情報発信を行っています。

- ホームページ <http://www.study-shizuoka.org/>
- Facebook <http://www.facebook.com/study.shizuoka>
- Twitter https://twitter.com/#!/sis_network

②留学ガイドブック

海外の留学希望者に対し、静岡留学の魅力を発信するため、本県や県内大学等に関する情報、当ネットワークの情報等を掲載した3言語(英語、中国語(簡体字)、日本語)の留学ガイドブックを作成し、海外大学や在外公館等に配布するとともに、海外で開催される静岡留学フェア等で活用しています。

〈滞在サポート事業〉

留学生のビザ等に関する各種手続きや、住宅などに関する相談、その他慣れない日本での留学生活における環境や文化の違いによる不安や悩み等の「よろず相談」をメールにより行っています。

また、緊急時の対応や日常生活に役立つ知識などを掲載した生活ガイドブックを作成し、会員校に配布しています。

〈交流推進事業〉

留学生と日本人学生、地元住民等との交流を促進し、大学の垣根を越えた留学生間のネットワークを構築するため、留学生や日本人学生が集まり、意見交換などを行う交流会を実施しています。

〈就職支援事業〉

静岡県内企業への就職を希望する留学生に対し、就職に必要な能力や知識の習得、就職機会の拡大等を図るため、4つの事業(就活支援講座、グローバル人材企業面談会、グローバル人材企業交流会、留学生就職情報ポータルサイト)を実施しています。

①就活支援講座

留学生が県内企業に就職するために必要な能力や知識の習得を支援するため、ビジネスに役立つ実用的な日本語や就職活動支援の講座を開催しています。

- ・開催時期:
8月～12月
- ・実施会場: 静岡会場、浜松会場



- ・開催規模及び回数:
各会場30人程度のクラスで8回(週1回3時間)程度開催
- ・講座内容:

【基礎講座】

第1回 オリエンテーション、県内の産業概要、就職活動体験談

第2回 ビジネス日本語

第3回 留學生OB体験談

第4回 日本企業におけるビジネス文化や習慣等、模擬面接

【実践講座】

第1回 企業訪問2社

第2回 企業訪問2社

第3回 企業経営者、人事担当者との意見交換会

第4回 企業経営者、人事担当者との意見交換会

・対象者: 会員校に在籍する留学生(短大1年生、学部3年生、修士1年生)

②グローバル人材企業面談会

留学生及び留学経験のある日本人学生の県内企業への就職を支援するため、留学生OBによる就活体験談の講演等を含めたセミナー及び留学生と企業との就職面談会を開催しています。



- ・開催時期: 12月(静岡会場)、1月(浜松会場)
- ・開催場所: 静岡会場、浜松会場
- ・対象者: 会員校に在籍する留学生及び留学経験のある日本人学生(短大1年生、学部3年生、修士1年生)

③グローバル人材企業交流会

就職活動に関する情報不足や、企業の外国人採用に関する情報不足等を解消し、相互理解を深めるため、大学、留学生、留学経験のある日本人学生と企業と意見交換、情報交換を行う交流会を開催しています。

- ・開催時期: 10月(富士会場)・11月(静岡会場)
- ・開催場所: 富士会場、静岡会場
- ・対象者: 会員校に在籍する留学生、留学経験のある日本人学生(短大1年生、学部3年生、修士1年生)

④留学生就職情報ポータルサイトの開設

会員校の留学生を対象として、インターネット上で留学生向けの求人情報にアクセスするポータルサイトを開設しています。求人情報は、静岡新聞社「新卒のかんづめ」や静岡県国際経済振興会との連携によって提供しています。

インタビュー

静岡県留学生支援ネットワーク



静岡県文化・観光部 大学課
課長代理
良知 徹 氏



静岡県文化・観光部 大学課 人づくり学術班
(静岡県留学生支援ネットワーク事務局) 主査
渡邊 宏 氏

Q 静岡県留学生支援ネットワークの設立の経緯や背景について教えてください。

国際化が進む中、静岡県としても国際的に活躍できる人材を育成していかなければならず、優秀な人材を海外から積極的に受け入れることにより県内の高等教育機関の競争力の向上、一方で県内企業の国内外での競争力の向上を行うことで、地域の力を強めていく必要があるという声が高まってきました。

その中で平成21年度に有識者会議を設置し討議を重ねた結果、「留学生を積極的に受け入れていくためには、留学前から留学中、さらには留学後までの一貫した支援に、産・学・官・地域が連携して取り組むことが必要である」との提言を受け、平成23年6月22日に当ネットワークが発足しました。

Q 静岡県留学生支援ネットワークの体制について教えてください。

県内の留学生が多く在籍する大学を中心に12大学等が正会員となり、行政会員として静岡県、賛助会員として静岡県国際経済振興会や国際交流協会、県内企業に加入していただいています。

また、協力団体として静岡県経営者協会、静岡県市長会、静岡県商工会議所連合会、静岡県商工会連合会、静岡県中小企業団体中央会、静岡県町村会から事業協力をいただいております。

Q 1年目事業の成果について教えてください。

平成23年度の就職支援講座については、静岡会場で25名、浜松会場で11名の参加がありました。就職支援セミナー・面談会(今年度事業:グローバル人材企業面談会)では静岡会場では企業10社、留学生51名、浜松会場では企業16社、留学生44名の参加があり実際に採用に結びついております。

また、留学生・企業交流会については、静岡会場では、企業22社、留学生27名、富士会場では企業10社、留学生34名の参加がありました。初年度事業に参加した大学・企業・留学生からの評価を基に、今年度はさらに良い支援ができるよう工夫を行っています。

Q 2年目となる今年度の新たな事業について教えてください。

新しい事業としては、会員校の留学生を対象として、インターネット上で留学生向けの求人情報にアクセスするポータルサイトを開設しました。具体的には、就職活動に関するノウハウ等を掲載するとともに、静岡新聞社が県内企業の求人を提供する「新卒のかんづめ」と、外国人の求人・求職情報を提供する静岡県国際経済振興会とのタイアップにより、両サイトへのエントリーに関するポータルページを新規に開設しました。

また、昨今グローバル人材の需要が高まっていることから、昨年度から実施している面談会や交流会については、留学生だけでな

く留学経験のある日本人学生も対象に広げ企業とマッチングしていく試みも開始しました。

Q 学生からの評判について教えてください。

就職支援講座について、受講生にアンケートを行ったのですが、おおむね評価は高かったようです。特に、企業訪問や企業経営者・人事担当者との交流会に対する評価が高い傾向にありました。

現在では、留学生もインターネットを中心に、留学生でも就職活動に関する情報を得やすくなっていますが、就職活動前に実際に企業の方と接触する機会は少ないと思いますので、企業訪問や企業経営者・人事担当者との交流会は、留学生にとって新鮮で有益な体験となったのだと思います。

一方で大学からは、ワンストップで就職支援講座や面談会等を行うことで大学側の負荷の軽減につながったとの声をいただいています。また、大学間にて留学生の支援の情報共有が出来たことも一定の評価をいただいています。

なお、企業面談会については、これまで東京や名古屋など大都市でしか開催されていなかったものが、地元で留学生に特化したマッチングの機会が設けられたことに対して評価をいただいております。

Q 今後の課題等について教えてください。

静岡県は国内トップクラスのものづくり県として知られており、バラエティに富んだ産業が集積しています。本県には比較的ベトナムやミャンマーからの留学生が多いのですが、昨今生産拠点として注目されているタイ・インドネシア・インドなど東南、南アジアの人材の要望が企業側から寄せられています。今後の海外へのPRにおいても、企業側の意見を反映した地域の留学生をいかに本県に呼び込めるかということが課題として挙げられます。

また、先ほども触れましたが、グローバル展開を行う県内企業の多くは製造業であり、理系学生に対する需要は非常に高いのですが、文系学生に対する求人は多いとは言いがたく採用企業の掘り起しを行うことが今後の課題として挙げられます。観光業については留学生の需要は高くなっているのですが、一部の業界だけでなくいかに多くの業界に文系学生を送り込むことができるかということも課題です。

Q 今後の方向性について教えてください。

現在は、入口から出口までの一貫した支援を行う中でやらなければならない事業が多く、限られた予算の中でポイントを押さえた事業展開を行っています。入口から出口までを網羅しつつそれぞれの事業を厚くしていきたいと考えています。おかげさまで就職支援は充実してきているのですが、まだまだ改善の余地はあると考えています。現状に満足することなく、今後は、企業や大学のニーズも取り入れながら優先順位をつけて事業を展開していきたいと考えています。

〈広島県〉

広島県留学生生活躍支援センター

■ 留学生支援事業開始の経緯

広島県では、平成20年3月に、「広島県人づくりビジョン」を策定し、「活力ある人づくり」と「人を活かす社会づくり」を目標に「国内外から人材が集まる魅力ある元気な広島県を目指す」とし、「国内外からの学生の受入れ促進」と「多様な能力を発揮できる環境整備」を取り組むべき内容として掲げています。

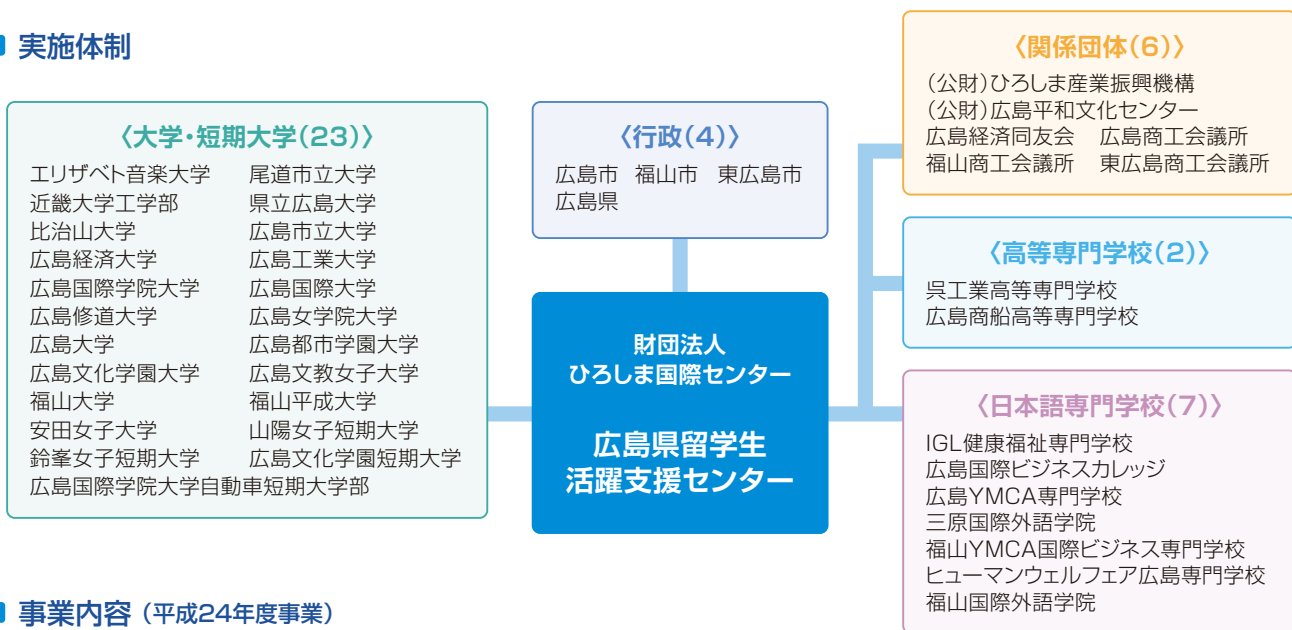
これまで、広島県内の留学生支援組織は、広島大学を中心として設置された「広島地域留学生交流推進会議」、広島経済大学を中心に設置された「広島地域留学生団体育成支援協議会」が活動しており、また、地域の国際化推進のための団体（財団法人ひろしま国際センター、公益財団法人広島平和文化センター等）が留学生支援を実施していました。

こうした背景の中で、平成21年5月には大学や留学生の関係団体で設置された「広島県留学生受入れ促進等研究会」が留学生支

援の調査・研究を行い、留学生支援事業や組織体制の整備について提言を行い、この提言に基づき大学、日本語教育機関、経済団体、行政等で構成する一元的な留学生支援組織の設立に向けて検討が重ねられ、平成23年4月に「広島県留学生生活躍支援センター」が設立される運びとなりました。

この「広島県留学生生活躍支援センター」は広島県内の大学、短大等や日本語学校の教育機関、行政や関係団体による産学官のコンソーシアムとして、優秀な留学生の受入れ促進から勉学・生活・就職支援に至るまでのプロセスを総合的に行っています。設立当初は大学連携組織である一般社団法人教育ネットワーク中国に新規事業部門（留学生支援）として設置されましたが、平成24年4月に事務局を財団法人ひろしま国際センターに移管して産学官連携と多文化共生をより意識した総合的な留学生支援事業を行っています。

■ 実施体制



■ 事業内容 (平成24年度事業)

〈受入促進〉

① 県内大学等海外共同PR事業

大学、日本語教育機関、関係機関が連携して大学や産業等の留学先としての広島県の魅力をPRしています。

- ・実施時期：9月
- ・実施場所：ベトナム(ハノイ・ホーチミン)
- ・訪問校：大学5校、日本語学校5校
- ・参加人数：13名

② 日本留学フェア参加・海外オンキャンパスPR事業(県委託事業)

日本学生支援機構(JASSO)が主催する日本留学フェアへ参加するとともに、現地の大学等を個別訪問し、留学先としての広島県の魅力をPRを行います。

- ・開催場所：中国(北京・上海)、韓国(ソウル・釜山)

③ 留学促進広報資料作成事業(一部県補助事業)

海外へ向けて県内大学や広島県等を効果的にPRするため、分かり易い広報パンフレットを作成します。また、留学生が編集する広島県の留学環境PRリーフレットを作成します。

- ・作成言語：日・英・中・韓・ベトナム語

④ 進学説明会事業

県内外の日本語学校等に在籍する留学生に県内大学のブースを設け、個別に相談できる合同進学説明会を開催します。

- ・開催時期：9月
- ・開催場所：広島市、福山市

広島県留學生生活躍支援センター

〈勉学・生活支援〉

⑤地域交流事業(県民・企業・大学)

留學生の地域文化、日本企業等の理解促進のための交流を行います。

- ・特定のファミリーと文化施設訪問、ホームステイ等を通じた交流促進
- ・企業関係者との座談会開催等による交流促進

⑥民間宿舎情報提供事業

県や市の留學生会館の情報提供や、社団法人広島県地建物取引業協会と連携して、WEBにて民間宿舎情報を提供します。

⑦留學生住宅保証事業

不動産関係団体、大学と連携して、留學生が民間宿舎に入居する際の住宅保証を実施します。

〈就職・就職後支援〉

⑧体系的就職セミナー開催事業

段階的に学習が出来る体系的な就職セミナー(入門コース及び実践コース)を開催します。



- ・実施場所:
広島市、東広島市、福山市
- ・対象者: 学部1年生から博士課程在籍者まで
- ・実施時間: 〈入門コース〉半日コース(3.5時間)
〈実践コース〉1日コース全2回(11時間)
- ・内容: 〈入門編〉日本における就職活動の概要や方法、日本の仕事の仕方、就労ビザ、県内企業等の基本を学びます。
〈実践編〉就職活動対策として、そのプロセスや対策(自己分析、企業研究、エントリーシートの書き方、面接等)を実践的に学びます。

⑨インターンシップ事業

- ・県内企業によるインターンシップ事業を実施します。
- ・実施時期及び期間: 9月及び2月に1週間程度で実施
- ・対象者: 実用日本語研修事業参加者

⑩就職活動個別コンサルタント事業(県委託事業)

留學生の就職活動に対する個別相談を行い、県内企業への就職を推進します。

・実施時期: 12月～3月(学部3年生・修士1年生)、4月～3月(学部4年生、修士2年生)

- ・対象者: 就職活動実践セミナー受講者
- ・相談内容: 就職活動計画の策定、企業説明会等の情報提供等
- ・実施方法: キャリアコンサルタント団体等への業務委託

⑪留學生活用セミナー開催事業(県委託事業)

県内企業に対して、留學生を活用したグローバル戦略や、活用事例の紹介を行い、留學生採用企業の掘り起こしを行います。

- ・開催回数: 年2回(6月及び11月)
- ・講師: ビジネスコンサルタント、企業採用担当者、企業経営者等

⑫留學生企業説明会事業(県委託事業)

留學生に特化した企業説明会を開催し、企業と留學生とのマッチングの促進を図ります。

- ・開催回数:
年2回(7月及び2月)



⑬実用日本語研修事業

就職に役立つ実用的な日本語研修を実施します。

- ・実施時期: 8月(夏休み期間中)
- ・実施回数: 6回(36時間)
- ・実施場所: 広島市、東広島市、福山市
- ・対象者: 日本語能力試験N1(旧1級)合格又はそれと同等以上の日本語能力を有する留學生
※選考試験により受講者の決定を行う。
- ・内容: ビジネス・就職活動を題材にした「書く」「話す」「聞く」「読む」技術の習得、ビジネス文化の理解、企業関係者との交流
- ・参加費: 参加費を徴収

〈情報提供〉

⑭留學生ウェブサイト開設事業

留学の段階ごとに集約したサイトを運営します。

- ・掲載内容: 海外向け情報(大学・産業・観光等)、勉学・生活支援情報・就職支援情報等

〈情報共有等〉

⑮留學生交流事業

県内留學生の参加のもとに留學生会総会及び親善スポーツ等を実施します。



広島県留學生生活躍支援センター
財団法人ひろしま国際センター
尾本 勝昭 氏

インタビュー

広島県留學生生活躍支援センター

Q 1年目の就職支援事業の成果について教えてください。

実用日本語研修については、県内広島地区、東広島地区、福山地区の3つの地域で募集し6日間(36時間)実施し、50名が参加しました。

体系的就職セミナーについては、「就職活動入門セミナー」と「就職活動実践セミナー」の2つの事業で構成され、「就職活動入門セミナー」については、1日(3.5時間)実施し44名が参加がしました。「就職活動実践セミナー」については、3日(10.5時間)実施し48名が参加しました。

インターンシップについては、夏期に5日程度のインターンシップを県内3拠点にて実施し、企業20社、留学生37名が参加しました。

就職活動個別コンサルタント事業については、各大学のキャリアセンターにて月1回実施し、26名が参加しました。

留學生生活用セミナー事業については、県内の企業を対象に2回広島地域で開催しました。1回目は67名、2回目は56名が参加しました。

留學生合同企業説明会事業については、企業と留學生の出会場の創出を目的として広島地域で2回開催しました。1回目は企業38社、留學生123名、2回目は企業31社、留學生136名が参加しました。

本年度は2年目を迎え、事業に参加した大学・企業・留學生からの評価をもとにさらに良い支援ができるよう工夫を行いながら事業を実施しております。

Q 大学や企業からの評判を教えてください。

大学側の評価として、留學生の少ない大学等では留學生に特化した就職支援が行えないという事情もあり、留學生の受入から就職支援までをワンストップで総合的に実施できる一元的な支援体制は大学の負担軽減につながり、留學生にとっても有益であるとの声が寄せられています。

一方で企業側からは、留學生採用の潜在的な要望がありながら採用に踏み切れなかった企業が、セミナーやインターンシップ、合同企業説明会等に参加することで留學生の採用につながったと高い評価を得ています。留學生に特化した合同企業説明会は外国人留學生にとって貴重な情報源で、採用予定の企業が年2回、30社程度集まり、毎回130人位の県内留學生が参加しています。

今後、多くの留學生が県内企業に就職、活躍してくれることで留學生の採用が企業の活性化に役立つことを望んでいます。

また、留學生の受入についても支援センターが大学や日本語専門学校等の海外でのリクルーティング活動に積極的に関わり、広島県全体の魅力発信をしています。県内大学や日本語学校の魅力をアピールすることで、外国人留學生のリクルーティングに優位に働いたとの声をいただいております。

Q 今後の課題等について教えてください。

広島県は自動車・造船・鉄鋼・一般機器、電子部品の加工組立型・素材型産業が集積しており、また、各産業の「オンリーワン企業」「ナンバーワン企業」が多く存在する「ものづくり県」として知られています。そのため、技術系留學生の需要が多く、昨今は生産拠点として進出しているタイ、ベトナム、インド、メキシコなどの東南アジアや中南米の理工系人材の要望が企業側から寄せられています。

今後は企業側のニーズに対応した多様な地域の多様な留學生をいかに広島県に呼び込めるかということが課題として挙げられます。

一方、8割を占める文科系留學生の就職支援の課題としては製造業に限らず、貿易関連の商社や観光業等のサービス産業への留學生の就職ニーズが高くなっていますが、広島県内にはサービス業等の第3次産業の中堅、中小企業が比較的少ないため、留學生採用を予定する幅広い企業の掘り起こしを必要としています。

また、各種就職支援事業の留學生の参加率やそれぞれの支援事業の接続を強化して事業成果を如何に上げていくかも大きな課題です。支援センターの事業は留學生の受入から就業支援まで広範囲に及び、対象とする留學生は多様です。また、多くの留學生はアルバイト等の時間的な制約もあります。留學生の参加率の向上と就職支援セミナーや日本語研修、インターンシップ、企業説明会等の事業運営をどのように効果的に推進していくかの課題解決が必要だと考えています。

Q 今後の方向性について教えてください。

留學生の受入れから就職支援までの幅広い支援事業をスタートさせて2年目を迎えていますが、留學生の支援事業を中心に多くの成果を残せたと考えております。

しかしながら、留學生の受入れ促進については国内外の効果的な広報の強化や各大学の受入キャパシティ、授業料減免、奨学金の拡大*等の課題もあります。

留學生数の拡大は日本留学後の就職やキャリアプランも含めた包括的な支援を提示することで、優秀な留學生の受入に繋がるものと考えていますが、今後、更なる産学官の連携によるオール広島での支援体制の推進が重要だと考えています。

そのためには、支援関係者各位の目的意識を共有し、各事業の成果の検証や関係者の合意形成を行い、企業や大学、留學生のニーズを反映した更なる事業展開が重要だと考えています。

*奨学金事業は、財団法人ひろしま国際センターで私費留學生に対する奨学金支給を実施しています。

〈福岡県〉

九州グローバル産業人材協議会

■ 留学生支援事業開始の経緯

九州の企業が、更なる成長を志向するためには、アジアビジネスへの進出など、積極的な海外事業展開を図っていくことが重要です。併せて、アジア諸国の追い上げ等に伴い、激化する国際競争を勝ち抜くためには、更なる企業のグローバル化が求められており、人材面においては、グローバル化に対応した人材の育成・確保が急務となっています。

そのためには、留学生等海外高度人材の活用や日本人のグローバル対応力の強化が必要であり、九州において、企業ニーズに即した「グローバル産業人材」を戦略的に育成・輩出するための実践的なプログラムの構築が求められています。

九州企業のアジアビジネスへの進出など、九州経済の活性化に寄与することを目的に、九州地域におけるグローバル産業人材の育成・活用に関わる産学官連携組織として「九州グローバル産業人材協議会（九州コンソーシアム）」を平成23年11月に設立し、

企業の海外事業展開等を人材面から支援しています。

- 理念1 協議会をプラットフォームと位置づけ、各機関参加型により事業を展開する。
- 理念2 協議会の役割は、全体の連携、調整及び統合の円滑化とする。
- 理念3 産業界（個々の企業含む）と大学の相互の情報交換を促進し、普段からの産学連携の深化を目指す。
- 理念4 全体的な政策課題（福岡経済同友会による提言等）を視野に入れながら、九州におけるグローバル産業人材の育成・活用を推進する。

※グローバル産業人材とは… 日本語に堪能な外国人留学生、外国語に堪能で外国事情に詳しい日本人学生等、企業が海外ビジネスを展開する際に活躍出来る人材。

■ 実施体制

〈経済団体〉

社団法人九州経済連合会
九州商工会議所連合会
九州経済同友会
九州インターンシップ推進協議会
財団法人九州経済調査協会
独立行政法人中小企業基盤整備機構九州支部
財団法人北九州産業学術推進機構
九州ベンチャーパートナーズ株式会社
財団法人九州産業技術センター
財団法人九州地域産業活性化センター
社団法人九州ニュービジネス協議会
九州経済国際化推進機構
社団法人福岡県産業廃棄物協会

〈企業〉

福岡県内企業	92社	佐賀県内企業	8社
長崎県内企業	3社	熊本県内企業	10社
大分県内企業	3社	宮崎県内企業	7社
鹿児島県内企業	3社	東京都内企業	1社
兵庫県内企業	2社	中国企業	1社

〈行政機関〉

福岡県	佐賀県	長崎県
熊本県	大分県	宮崎県
鹿児島県	北九州市	福岡市
熊本市	福岡労働局	九州経済産業局

**九州
グローバル産業
人材協議会**

〈会長〉
社団法人九州経済連合会会長

〈副会長〉
学校法人福岡大学学長

〈副会長〉
学校法人麻生塾理事長

〈幹事〉21名
〈顧問〉2名
〈アドバイザー〉2名

〈事務局〉

社団法人九州経済連合会
学校法人麻生塾
九州経済産業局

〈大学〉

国立大学法人九州大学
学校法人福岡大学
学校法人福岡工業大学
国立大学法人九州工業大学
公立大学法人北九州市立大学
学校法人早稲田大学
国立大学法人佐賀大学
国立大学法人長崎大学
国立大学法人熊本大学
国立大学法人大分大学
学校法人立命館 立命館アジア太平洋大学
国立大学法人宮崎大学
国立大学法人鹿児島大学
九州産業大学
西日本工業大学
学校法人君が淵学園崇城大学
長崎県公立大学法人長崎県立大学
学校法人熊本学園熊本学園大学

〈支援機関〉

長崎“新生”産学官連携コンソーシアム(NRC)
高等教育コンソーシアム熊本
特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾(KAIL)
一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会(KAC)
特定非営利活動法人新アジア人材・技術協力機構(NACS)
一般社団法人日本グローバル化研究機構(RIJAG)
財団法人福岡県産業・科学技術振興財団
財団法人日本国際協力センター 九州支所
学校法人麻生塾

〈グローバル人材インターンシップ推進事業〉

外国人留学生などグローバル人材の採用を検討する企業に対する支援の一環として、毎年夏季に語学堪能な外国人留学生とグローバル志向の高い日本人学生を対象とした2週間～1ヶ月程度のインターンシップを実施しています。

応募学生の選抜においては、専攻分野や出身国、語学力等、参加希望学生の属性や志向についてヒアリングを行い、個々の企業が求める人材要件やニーズを満たしているか確認することで、精度の高い企業ニーズに即したインターンシップマッチングをしています。

また、事前研修(目標設定)、事後研修(成果報告)を行うことにより、留学生に対してより効果的なインターンシップを実施しています。事前研修では、企業での商習慣、ビジネスマナー、社会人基礎力、就職能力等の、ビジネス資質を体系的に高め、目標設定の上、インターンシップ先企業に派遣します。また、事後研修として、インターンシップでの成長度を確認し、成果を共有しながら、更なる目標を設定しています。

本インターンシップは、企業・学生のお互いのニーズを満たし、グローバル志向の両者をつなぐことで、採用につなげる企業ニーズ即応型インターンシップを目指しています。

〈グローバル人材マッチング交流会・各種セミナー事業〉

海外に進出している企業や、今後進出を計画している企業への就職を希望する留学生及び日本人学生の交流や、企業と学生との相互理解を深めることを目的とした、企業と留学生の交流フェアを九州域内各県にて開催しています。



今年度は、各自治体と連携し、北九州市(6月25日)、佐賀県(8月7日)、宮崎県(10月18日)、長崎県(11月10日)、大分県(12月8日)、熊本県(12月15日)、鹿児島県(2月18日)で開催しております。

また、留学生の採用に積極的な企業の拡大を図るため、各地でグローバル経営促進セミナーなどを開催します。内容については、有識者による講演や九州企業による留学生活用事例の紹介などを行います。

〈グローバル人材就職支援・育成研修支援事業〉

九州域内の大学において、域内企業へ就職するために必要なビジネス商習慣、情報、知識、方策等を習得できる講座や、様々な就職支援メニューを提供する講座を実施し、受講者の高度人材とし

ての資質を高め、企業への主体的な就職活動を促進していきます。

また、ビジネス日本語教師、就職支援従事者及びキャリアカウンセラー向けに、定期的な勉強会及び講師育成講座を実施していきます。二極化する昨今の就職活動で、留学生の就職を支援する側の質の向上も求められており、支援の在り方の検証やその一助としての養成講座を実施することにより、留学生の就職支援の精度を高めていきます。

〈グローバル人材採用広報推進事業〉

グローバル人材(留学生及びグローバル志向の日本人学生)向け求人情報の集約と情報提供をしております。昨年度は45社、今年度は100社を目標に、HP上にて公開していきます。留学生と企業とをダイレクトに繋ぐ事業として推進しております。また、Web等を活用して、グローバル人材活用事例や会員機関が実施するイベントの情報など、随時掲載し、情報発信を行います。協議会ホームページでは、グローバル産業人材活用事例企業の紹介や活用ガイドの掲載、会員機関が実施するイベント等の情報についても随時掲載しています。

また、グローバル産業人材の育成・活用等に関するタイムリーな情報を提供するため、会員へメールマガジンを配信しています。

〈産学連携推進事業〉

ソーシャルメディアを活用し、学生に企業情報等を提供します。また、情報のミスマッチの解消を図るため、大学の協力を得て、優れた企業の経営者を講師とした定期的な講座を開設しています。

今年度は、グローバル人材採用育成実績の豊富な地元企業複数社を招き、福岡大学にて実施しました。今後は、シリーズ化して、他教育機関へも支援の輪を広げていきます。

〈海外人材ネットワーク事業〉

海外にいる人材(日本人、留学生OB等)の九州企業とのマッチングシステムの構築を検討し、企業が求めるグローバル人材の確保を目指します。

また、ハノイ・上海福岡留学生会、大分県留学生OBネットワークなど、各地域で構築された留学生OBネットワークや、和僑会など海外日本人ネットワーク等のビジネス場面での活用策を検討します。

インタビュー

九州グローバル産業人材協議会

九州グローバル産業人材協議会
宮本 嘉典 氏**Q 当協議会を設立した背景を教えてください。**

国内市場の先行きが極めて不透明であり、今後日本経済が成長していくためにはアジアの勢いを取り込んでいくことがより重要になります。九州企業においても、アジア事業の展開は最重要課題と認識されており、それに伴いグローバル人材に対するニーズも高くなっていますが、それでも留学生の採用は十分とは言えません。一方、首都圏では、戦略的に留学生を採用しようという企業が多数あり、結果として九州の留学生の多くが九州で働く意志を持ちながら、他地域に出て行かざるを得ない状況になっています。

このような背景から、今回の協議会では、インターンシップを通じて企業と留学生の接点の創出、相互理解を進めることにより九州域内企業の留学生採用の促進を目指しています。

Q インターンシップを事業の核としている理由を教えてください。

九州には留学生を継続採用している実績企業は増えてきていますが、経済の流れほどドラスティックではありません。これから留学生を採用する企業や、潜在的な採用ニーズのある企業においては、即採用というのは障壁が高く、留学生の特性を把握できるか、社内の日本人スタッフが留学生と協働できるか等課題が多いことから、まずはトライアルとしてインターンシップを導入することで、留学生の採用に関する不安を取り除くことが重要です。

一方、留学生においては、日本企業で成長するイメージを掴み、日本企業で働くための自信を持つこと、また、インターンシップを通じてしっかりと業界、企業研究を行うことで、中小企業を含めた様々な業界に興味を持つことが重要です。

特に留学生の場合、日本企業との最初の接点となりますし、日本企業への志望意欲を高め、商習慣等の理解、ビジネスでの貢献・成果に繋げるには、最適な方策だと考えております。

本事業のインターンシップは、企業とグローバル産業人材の接点の創出が一番の目的ですが、企業ニーズをしっかりと把握し、双方のギャップの穴埋めを支援し、ニーズに合う人材をマッチングすることが大事だと考えております。

Q 1年目の推進事業の成果について教えてください。

1年目の成果として、夏季インターンシップについては、受入企業は46社、応募学生は7校から47名の応募がありました。マッチングを経て、実際の稼働は企業15社、学生28名(日本人学生5名含む)でした。

また、企業とグローバル産業人材との相互理解を促し、九州企業での活用・定着を促進することを目的とした交流会を、北九州市と別府市の2ヶ所で開催しました。

一方で、一連のインターンシップや交流会に参加した学生が参加企業に10名程度就職したことも1年目の大きな成果といえます。

2年目となる本年度はインターンシップについては、1年目の成果により、本協議会が認知され、大幅に受入れ企業数、参加学生数が増加しました。受入れ企業数は84社、応募学生数は16校から97名でした。マッチングを経て、企業29社、63名(日本人学生25名含む)で実施しました。

Q 大学・企業・留学生などの評判について教えてください。

インターンシップの受入企業数、参加大学数、参加留学生数を見ても1年目から大幅にそれぞれが増加しているのが高い評価をいただいているものと自負しております。且つ、留学生の質保証の点からも、負荷の高い研修と精度の高いマッチングを施すことで企業が望む人材を送り出しております。

本事業は企業と留学生の接点をいかに創出するかという観点から、インターンシップと交流会を開催しています。留学生からは、「日本企業への志望度が高まった」「日本企業に必要なビジネススキルが理解できた」等の声をいただいております。

また、交流会については、九州全県で開催していることもあり、地元企業や大学からは喜ばれております。

Q 企業の最近の動向について教えてください。

ここ数年はビジネスの拡大に伴い、特に東南アジア、東アジアの留学生の需要が高まっています。海外から九州域内への観光客が増加傾向にあり製造業に加え、流通業、小売業などで留学生採用が増えているようです。また、企業規模別にみると、中小企業、ベンチャー企業など従業員規模の比較的小さい企業での採用が増えています。

Q 今後の方向性について教えてください。

九州グローバル産業人材協議会では、2つの目標があります。一つは、外国人留学生の地域企業への就職促進であり、もう一つは日本人学生など、国内人材の海外交流拡大です。

前者の今後の方向性は、現状のインターンシップを軸とした採用促進を今後も継続して行きます。企業がセミナーに参加して留学生採用に対する理解を深め、インターンシップで実際に留学生を評価していただき、交流会や合同企業説明会などで採用する一連の流れを今後も九州域内の企業に対して広く啓蒙活動し、参加企業を増やしていくことが重要だと考えています。

また、後者についても単に日本人学生を留学させるのではなく、海外インターンシップを行うことで、海外のビジネス慣習や文化を深く理解することができると考えています。まだ検討段階ではありますが、今後は海外インターンシップの可能性について調査を行いながら日本人学生のグローバル化に資するべく、事業の構築を行いたいと考えています。

「コミュニケーションスキルを磨き、日本企業で活躍してください。」



株式会社ヤス中
総務部 部長
長江 猛 氏

Q 御社の事業内容を簡単に教えてください。

私どもは機械部品の中でも、ベアリングと言われる軸受けの専門商社です。現在では、ベアリングから電動品を含めた装置、もしくは設備そのものの受注から納品までを手掛けています。大手専用機、工作機械メーカーが私どもの顧客にあたります。現在、多くの顧客は国内の販売だけに固執せず、海外に進出しています。私どもも商社として顧客の海外進出に伴い、現地でも商売をさせていただくという体制をとっています。

現在、海外拠点として、韓国と上海に現地法人を置き、近い将来は台湾にも設立を予定しています。今までは中国に力を入れていた顧客も、日中の国際問題の影響を受け、中国に限らずベトナムやインドネシア、タイに生産拠点を移行する中で、当社もベトナムやインドネシアへの移行を視野に入れて動こうとしています。業展開が重要だと考えています。

Q そのような状況の中で外国人の採用は、どのように行っているのでしょうか。

当社が韓国や上海に進出する以前、今から10年前に初めて留学生を正社員として採用しました。その後も毎年コンスタントにというわけではありませんが、正社員として採用したい人がいれば留学生の採用を行っています。私どもが扱う製品は専門性が高く、知識を身につけるにも時間がかかります。現地で十二分に仕事をするためにも、こちらで日本の商習慣や日本企業の常識を理解してもらう必要があります。少し時間がかかるかもしれませんが、会社の指示が出たときの的確な対応がとれるようなスタッフに成長していただきたいと思っています。

留学生採用と言っても、その採用基準は人物ベースです。留学生だからといって、特段アドバンテージがあるわけではないし、それがデメリットになることもありません。一般論として、留学生は日本語も上手だし、頭が下がるくらい勉強されていてとても優秀です。当社で人を採用するときの大きなポイントは、会社に入ったときに、先輩社員と上手にチームワークを築きコミュニケーションが取れるかどうかです。言葉を換えれば「社内で浮かない人」を求めています。成績がいい悪いよりも、人とうまくやっていけることを重視しています。

Q 留学生に求める要件は、どんなことがありますか。

日本語能力については、日本語能力試験のレベルというより、社員とのコミュニケーションが取れるということを求めています。たとえN1でも話をしたときに、何を言っているかわからないN1では困るわけで意味がありません。ですから級や資格の条件は設けていません。

Q 留学生が御社で基本的なことを身につけたあとの、キャリアパスを教えてください。

女性事務職については社内勤務ですから、日本人と外国人で違いはありません。男性の場合は営業ですから、日本で勉強をしてから、近い将来、自分の国へ帰って、当社の海外拠点に近いところで根を下ろして仕事をしてほしいと考えています。基本的に男性の留学生については、海外の子会社や営業所で指揮をとってもらえるような人材になってほしいですね。

実績として現地法人への転籍までの期間は、人や状況によって違い、1年で転籍する人もいれば6年で転籍する人もいます。これまで4人の留学生が転籍をし、現在日本には6人が在籍しています。6人のうち4人は女性で、そのうち3人がこの本社勤務です。3人のうちの1人は今月から産休を取り、育休明け、1年後に職場復帰をしたいと言っています。すでに育休を取って復帰している中国人女性もいますので、そういう意味で、うちは女性社員に優しい会社ですね。

Q それは日本人、外国人の区別がない、ある意味理想的な姿ですね。外国人社員が日本人社員に与えるいい意味での影響はありますか。

私が感じているように、留学生と接して、ほかの社員もきっとすごいと感じていると思いますし、触発されているでしょう。中国語が勉強したければ、中国出身の女性スタッフが中国語教室を開くというように、社内も徐々に国際化が進んでいるように感じます。

Q これから就職を考える留学生に期待することは何ですか。

まず日本の会社で働こうと思ったら、変なプライドは持たない方がいい。日本の会社には日本の会社のやり方があるから、あまり正論ばかりを振りかざすのは、度を過ぎると、うちに限らず、どこの組織でも快く思われない可能性が高いですね。そこは上手にやらなければいけないし、さじ加減の難しいところです。

留学生にはアルバイトの制限があると思いますが、学生として付き合っている日本人と、アルバイト先で付き合う日本人とは、接し方も扱われ方も違うでしょう。その感覚を肌で感じるのが大事です。お金をもらう立場で会社に入れば、理不尽なことは山ほどあります。留学生だから特にそう感じるのではなく、これは就職する学生すべてに言えることなのです。総じてコミュニケーション力と言われることですが、その感覚を多くの人たちの中に飛び込んで磨いてください。留学生たちの日本企業での活躍を期待しています。

（会社プロフィール） 株式会社ヤス中
愛知県名古屋市中区村雲町17-23
1929年（昭和4年）創業 資本金1億円（連結） 従業員80人
<http://www.y-nt.co.jp/>

〈大学〉

国立大学法人 愛媛大学

■ 留学生支援事業の概要

愛媛大学では、「人材」を「人財」にする高度教育プログラムとして、アジアの相互理解と経済連携の促進に向け、「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」を実施しています。

日本とアジアの架け橋となる留学生が、日本企業で活躍できる機会を拡大するために産業界と大学が一体となり、ビジネス日本語・日本ビジネス教育、インターンシップ、就職支援まで優秀な人材を育成するプログラムを一貫して行っています。

・対象者：日本で就職を希望する学部3年生、修士1年生、博士2年生（日本語能力N2以上保持者）

・内容：ビジネス日本語教育、インターンシップ、就職支援の3つの事業から構成。

プログラム参加者はすべての事業に参加。ビジネス日本語教育、ミニ合同企業説明会については、プログラム参加者以外も参加可能。

■ 事業内容

〈ビジネス日本語教育〉

ビジネス日本語教育については、「日本語読解作文E1」と「日本語総合E1」の2科目を大学の共通教育科目として単位化して実施しています。

①日本語読解作文E1（共通教育2単位（週1時限））

本授業では、①日本語で文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解するとともに、②様々なコミュニケーション方法の特色を比較して、場面や相手に応じた適切な手段で自己表現をする能力の習得、③情報を収集・整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる能力の習得等を目標としており、授業形態としては、随時グループ学習を取り入れています。

②日本語総合E1（共通教育2単位（週1時限））

本授業では、①会議、商談、電話の対応などあらゆるビジネスの場面で相手の話す内容を正確に理解すること、②対人関係に応じた言語表現の使い分けが出来るようになること、③日本のビジネス慣習を理解することの3点を目標としており、授業形態としては、随時グループ学習を取り入れています。

〈インターンシップ〉

全15回の座学のインターンシップセミナーを週1回1コマ（90分）で実施しています。日本企業の動向、愛媛県の産業の特性など、インターンシップや将来的な就職活動時において企業を選択するための知識習得や、日本の企業文化、ビジネスマナー、ビジネス文書の作成等の事前教育を実施した後、7月～9月にかけて3日～2週間のインターンシップを実施しています。終了後は、本人へのフィードバック、報告会などを行っています。

〈就職支援〉

①就職支援セミナー

全17回の就職支援セミナーを週1回1コマ（90分）で実施しています。講義テーマとしては、就職活動の概論、就職活動における企業側の視点、愛媛の経済と主要産業の現状、愛媛県内企業の

海外進出動向を取り上げるとともに、演習としてSPI試験対策、スピーチ力アップ演習などを行うことで、座学から演習までの幅広い支援プログラムを実施しています。

また、企業数社を集めた小さい規模の合同企業説明会を2回開催しています。企業の経営層の方の事業説明やフリーディスカッションなどの機会を設け、県内企業と留学生がふれあう場の提供も行っています。

②ビジネスマンブラッシュアップセミナー

社会人として必要な基本スキルを身につけるためのセミナーを開催しています。講義テーマとしては、仕事の役割と責任、組織の機能と業務マネジメント、仕事の上手な進め方、ビジネス文書の作成を取り上げるとともに、演習として接遇演習、チームワーキング演習、プレゼン演習などを実施しています。

③キャリアカウンセリング

留学生に特化したキャリアコンサルタント室を設置（キャリアコンサルタント3名を配置）し、個別カウンセリングを実施しています。



国立学校法人 愛媛大学



国立大学法人 愛媛大学
国際連携推進機構
国際交流アソシエイト・キャリアコンサルタント
田村 七重 氏

Q 留学生の就職支援事業の背景について教えてください。

2008年7月に文部科学省と関係省庁が策定した「留学生30万人計画」に沿って、愛媛大学では、2009年に国際連携推進機構を設置し、2011年には4つの命題（「世界の人々と協働できる人材を育てます」「学術研究において国際ネットワークを構築します」「世界の人々とともに地域の課題に取り組みます」「国際通用性のあるキャンパス環境を作ります」）のもと12項からなる「国際化推進基本戦略」を制定し大学の国際化を図ってきました。

また、2007年度から2010年度まで経済産業省・文部科学省の共催事業である「アジア人財資金構想」を受託し、プログラムの基礎となるノウハウやコンテンツ、体制を整備することができました。

留学生の在籍数についても、2008年は約200名でしたが、2012年5月現在で314名に増加し、日本企業へ就職を希望する留学生が増えてきたこともあり、2011年に「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」を設置・開始しました。このプログラムでは、留学生が日系企業で活躍できる機会を拡大するために産業界と大学が一体となり、ビジネス日本語・日本ビジネス教育、インターンシップ、就職支援まで優秀な人材を育成するプログラムを実施しています。

Q インターンシップ事業の特色と効果について教えてください。

本プログラムの柱となるのが、インターンシップ事業であり、特にインターンシップの前後の教育にも力を入れております。具体的には、日本企業で働くための企業文化の理解やビジネスマナーの習得、企業研究などの事前教育と、実習後のフィードバックやインターンシップ発表会におけるプレゼンテーションなどを行うことでより教育効果を高める工夫をしています。また、インターンシップを実施する業界・企業研究を通して自分が何をしたいのか等の自己分析をすることにより将来のキャリアを考えるきっかけとなるため、卒業後の次のステージへの準備という観点では、非常に意義のある事業だと考えています。

また、インターンシップ事業の効果としては、実際に企業で実習をすることで、現状の自分の能力、スキルがどこまで通用するのか、また、何が足りないのかに気づき、実習終了後に学習や就職へのモチベーションが高まるなどの効果があるようです。企業で働くという体験は、座学の教育だけでは得られない肌で感じる何かを得てきているのだと思います。

Q 企業との連携について教えてください。

本事業の柱となるインターンシップの受入れから求人情報の提

供など、本事業は産学が一体となって優秀な人材を育成するプログラムですので企業との連携は非常に重要となります。その中で、企業との連携については、「サポート協力企業会」を構築しています。

事業開始当初は、受入れ企業の開拓については、試行錯誤の連続でキャリアコンサルタントと大学職員が業界経験者やOB等の助言を得ながら県内の企業を訪問しました。何度も訪問することにより私たちもたくさんのお話を学ぶことができ、留学生を企業でどう活用してもらおうのいいのかということが見えてきました。現在はこのような地道な訪問や説明の積み重ねにより、約150社の企業がサポート企業会に加入していただき、当事業への支援をいただいております。

参加企業の特典としては、合同就職説明会への優先ご案内や企業ニーズに基づく外国人留学生採用、通訳等のアルバイトの無料相談、採用・定着に関する各種セミナーへの無料参加などを提供しています。

企業との連携においては、インターンシップが重要な役割を果たしたと考えています。これまで留学生を採用したことがない企業も多数を占めている状況の中、毎年行われるインターンシップ報告会に参加いただくことで、留学生との接点を持つことが出来、翌年のインターンシップの受入れに繋がるケースもありましたし、インターンシップを初めて実施した企業からは、留学生のポテンシャルの高さを評価いただき採用への意欲が高まる効果もありました。また、日本人社員の国際化や意識改革の効果もあったとの声も多く聞きます。

Q 今後の課題や展望について教えてください。

刻々と変わる企業側のニーズに、きめ細やかに対応するためにプログラムの内容や体制をブラッシュアップし続けていくことが課題であり、将来の展望だと考えております。

現状は、県内企業の留学生採用については、県内の中堅・中小企業の海外進出などを背景に、留学生の語学力や母国の知識などの特性を求めて需要が高まっていますが、愛媛県内の企業は中小企業が多いため、毎年一定数の採用があるわけではなく、また、企業の絶対数も多いわけではないので、今後は留学生の特性を求めての採用が充足された後の対応として、日本人学生と同じ土俵で、就職活動において勝ち残っていくような人材の育成をさらに重視していかなければならないと考えています。

そのためには、現在のプログラムをもう一段高いレベルで実施するための教育体制が必要であると考えています。

また、大学内においても国際化の推進に伴い、日本で就職を希望する留学生の増加が予想されます。現在は、1学年10人程度の規模での運営を行っていますが、今後は受講生の増加に対応できる体制も構築する必要があると考えています。

〈大学〉

学校法人 明治大学

■ 留学生支援事業の概要

本校では、2007年より就職キャリア支援部において、全てのキャンパスで外国人留学生向けの就職支援行事を実施しています。就職キャリア支援行事の内容については、ガイダンス、筆記試

験・面接・業界研究等に関する各種講座、在留資格やビジネス日本語に関する講座、企業説明会等多岐にわたり実施しております。

■ 事業内容

〈ガイダンス〉

① プレ就職・進路ガイダンス(6月)

就職活動の流れ、外国人留学生として心がけること、行事の紹介、内定者からの報告・アドバイス、コンピテンシー診断等を説明します。

② 就職・進路ガイダンス(9月)

雇用環境や採用動向、就職活動の進め方、就職キャリア支援書の活用方法、今後の行事予定等を説明します。

③ 就職活動の基礎知識講座(9月)

就職・進路ガイダンスの続編。外国人留学生としての就職活動の方法・心構え、自己分析の仕方、求人票の見方、情報収集の仕方、自己PRの方法等の概要等を説明します。

〈講座〉

① 筆記試験講座1(6月)

筆記試験の概要について説明します。

② 筆記試験講座2(10月)

筆記試験講座1のおさらい、テストセンター画面操作・SPI2以外の適正検査等を説明します。

③ 日本での就職活動のためのビジネス日本語講座(11月～12月)

全5回のビジネス日本語講座であり、自己分析の仕方、履歴書、エントリーシートの書き方、自己アピールの方法、面接試験におけるポイント等、日本で就職活動を行う際に必要となる日本語能力のブラッシュアップを行います。

④ 外国人留学生のための企業研究講座(10月)

「メーカーとB to B企業」、「グローバル人材」、「企業の魅力の感じ方」について学習する講座であり、広い視野での企業研究を行うきっかけづくりとして実施します。

⑤ ビジネスマナー・面接対策講座(12月)

日本と海外のマナーの違いや、マナーや第一印象が面接にどのように影響等について、座学と実習から学びます。また、ビジネスマナーを踏まえた面接練習を行います。

〈企業説明会〉

① 日系企業中国現地法人合同説明会(6月)

中国の就職事情(新卒事情)についての説明、各社会社説明、パネルディスカッション等を開催します。

② 企業見学会(12月)

日本企業のイメージをつかむために、企業のオフィス見学、会社説明会や職員との座談会を開催します。

③ 外国人留学生のための業界研究会(12月)

グローバル展開を推進している企業の人事担当者等にお越し頂き、平成24年度は、通信業界、企業について説明します。

④ 企業個別説明会(適宜)

個別企業の説明会を適宜開催します。

〈その他〉

① BJTビジネス日本語能力テスト サンプルテスト(6月)

※今後実施するかは未定です

財団法人日本漢字能力検定協会主催のBJTビジネス日本語能力検定のサンプルテストを実施します。

② 「失敗しない」ビザ申請手続き直前講座(10月)

行政書士を講師として招聘し、就労ビザへの在留資格変更許可申請手続きの概要等を説明します。

③ 在留資格許可申請に関する相談会(11月)

行政書士を招聘し、在留資格変更許可申請に関する相談会を実施します。

④ OB・OG及び内定者との交流会(11月)

日本で働く元留学生のOB・OGや就職活動を終えた先輩の話や聞ける交流会を実施します。

⑤ BJTビジネス日本語能力テスト(11月)

財団法人日本漢字能力検定協会主催のBJTビジネス日本語能力検定のテストを実施します。尚、定員を設けて、受験費用は大学が負担しています。

⑥ 外国人留学生のためのエントリーシート添削(1月～3月)

週1、2回の頻度で、就職キャリア支援事務室職員が個別のエントリーシートの添削を実施しています。

学校法人 明治大学



明治大学 就職キャリア支援部
部長
福田 敏行 氏



明治大学 就職キャリア支援部
就職キャリア支援事務室
高 賢 氏



明治大学 就職キャリア支援部
就職キャリア支援事務室
中村 明美 氏

Q 留学生の就職支援事業の背景や実施体制について教えてください。

本学は2008年より、外国人留学生に特化した就職キャリア支援を開始しました。背景としては、増加する留学生の就職支援の必要性が高まってきたということです。また、本学の将来的なビジョンとして、今後留学生を4,000名に増加させるという大学の方針があり、受け入れ体制の整備と併せて、留学生の就職支援を行う必要がありました。

留学生就職・キャリア支援については、3キャンパス全てで同じ仕組みで実施しており、支援行事の企画運営は担当を決めて実施しているのですが、個別のキャリアカウンセリングの対応などは特に担当を決めず、全ての職員が対応できる体制を構築しています。

Q 外国人留学生内定者、元留学生OB・OGの交流会について教えてください。

本学に在籍する留学生の内定獲得者3名、日本企業に就職した留学生OB・OG3名から、就職活動の体験談やアドバイス、就業後の仕事の様子、就職活動を行う上での留学生のメリット・デメリットや日本人と働く上で気をつけていることなどについて講演していただき、質疑応答の後に交流会を実施しています。やはり日本企業に就職が決まった成功事例の体験談は、就職活動中の学生からの関心が高く、同じ目線からアドバイスや実体験を聞けるということで、終了時間を過ぎても質疑応答が終わりず、毎回終了時間を大幅にオーバーするほど好評です。交流会終了後も個別に情報交換をしているようです。

Q 企業との連携について教えてください。

企業との連携については、業界研究会、個別の説明会について、講師の派遣をお願いしています。留学生が日本で就職活動を行う上で、「企業を知る」ことが大事であり、企業の方に説明していただき、接点を創出することは、留学生にとって非常に効果的であると考えております。また、企業見学会も実施しているのですが、実際の企業の現場を見学することで、日本企業で働くイメージをつかめると留学生からも好評です。

また、求人情報については、留学生を積極的に採用する企業の情報をファイリングし、留学生が企業探しをしやすいように工夫しています。最近では、日本企業に就職する本学の留学生が増えてきたこともあり、OB・OGの協力のもと、留学生の採用に特化した採用試験等の情報やOB・OGの体験談、名簿なども増えてきたことで、留学生

のOB・OG訪問も少しずつですが行えるようになってきました。

企業との連携については、現状の講師派遣や説明会参加、求人情報の提供だけでなく、今後は、より強固な関係構築を行っていく必要性があると認識しています。

Q 企業や留学生からの評判、成果について教えてください。

留学生に特化した就職キャリア支援を始める前は、就職キャリア支援部に相談に来る留学生はほとんどいませんでした。最近では、多くの留学生が入りやすくなったことが一番の成果だと感じています。以前は、留学生は日本の就職活動の情報を入手することができず、キャリア支援部の存在を知らない学生が多かったようですが、就職キャリア支援行事を始めてから、ガイダンスや講座に参加する留学生が増え、スタッフの顔を覚えることにより、就職キャリア支援部に来やすくなったとの声も聞きます。

就職キャリア支援行事についても、開始当初から試行錯誤し、現在は、ガイダンスについては約100名の留学生が参加する規模になり、個別の講座も30名～60名の参加があります。

また、支援スタッフとしてうれしかったのは、支援した留学生の内定が決まり、就職キャリア支援部に報告とお礼に来ていただける留学生が増えたことです。また、自分がお世話になったので、今度は後輩に対して何か役に立ちたいという留学生も増えてきており、先輩が後輩を支援するという好循環ができつつあります。

一方で企業からは、就職キャリア支援により様々な企業に就職する留学生が増えたこともあり、「大学内で選考会を行いたい」、「本校の留学生をまた採用したい」という声は少しずつ増えてきています。これからこのような声をもっと増やしていきたいと考えています。

Q 課題や今後の展望について教えてください。

留学生の就職活動においては、開始時期が日本人学生と比べて遅いということと、日本の企業をよく知らないという2つの課題があると認識しています。今後は早期に就職活動の準備を行う流れを作る為に、就職支援だけでなく、キャリア教育を含め、早期の段階から日本企業を知る機会を設けることで、企業選択の幅を広げるとともに、万全の準備のもと就職活動ができるよう支援していきたいと考えています。

また、留学生の参加率については、まだまだ改善の余地があると考えています。日本で就職を希望する全留学生が参加していただけるよう、各プログラムの内容のブラッシュアップを行い魅力的な支援を行えるよう改善をしていきたいと考えています。

「留学生が高い能力をフルに発揮できる、雇用環境を用意」

横浜油脂工業株式会社
代表取締役社長
本多 秀夫 氏

Q 御社の事業内容を教えてください。

油脂加工の研究開発メーカーとして創業し、精密洗浄剤、カーケミカル製品、ビルメンテナンス製品、食品素材の製造・販売・研究開発を続けてまいりました。また、並行してこれら事業で培ってきた技術をベースに、ニューマテリアルの研究開発を行い、薄型テレビや携帯電話に使われているフラットパネルの洗浄剤など、時代のニーズに応える製品を送り出しています。現在はB to Cの展開を視野に入れ、天然成分の化粧品事業も進めています。

Q 日本の高い技術力を習得する外国人が増加し、御社では5、6年前に外国人をキャリア採用されていますが、その背景を教えてください。

純粋に優秀な研究者を探していたら、たまたま外国人だったのです。日本の大手メーカーで活躍されていた方で、日本語や日本の習慣などにも精通していたので、日本人スタッフを採用するのと大差はありませんでした。上海に貿易会社を興した際には彼らが中心になって動き、政府との交渉からすべてを任せました。

Q 3年前に留学生の採用を開始した経緯を教えてください。

天津に食品工場を作るために、日中の橋渡しになる人材が必要になったからです。外国人留学生を対象にした合同企業説明会に参加し、中国出身の女性を採用しました。日本語は不自由なく話せましたし、大学の成績も優秀でした。なにより当社で働きたいという積極的なアピールに熱意を感じました。

Q 2013年に留学生の採用予定はありますか？

中国出身の男女1名ずつを予定しています。3年前と同じ合同企業説明会で出会い、内定に至りました。将来的に中国工場の中核になる人材で、期待も大きいです。

Q 留学生の場合、新卒者を対象にした就活サイトからの応募もあると思うのですが。

ええ、ありましたが望むような人には出会えませんでした。事業的に理系出身の方が欲しかったのですが、残念ながら文系出身の学生のエントリーのみでした。しかし前述の合同企業説明会は、事業内容を直接学生にPR出来、学生も自分を活かせる企業をポイントで探せるので、双方にベストマッチング出来る、いい機会だと思いました。

Q 現地で日本語に堪能な人材の採用は考えていますか？

工場スタッフは現地採用で問題ないのですが、本社がある日本と現地とのパイプ役となる人は、日本の文化・企業を熟知していないと難しいですね。さまざまな交渉事に日本には日本の暗黙の

ルールがあり、現地にも現地のルールがある。両方を理解し均衡を取れることが重要です。その意味では、留学生は数年間日本で生活をしていますから、文化の違いや日本人の“気質”を肌で感じ取っています。もちろん、日本語も何不自由なく話せます。企業がグローバルに展開していく上で、日本で学び生活している留学生は大きな戦力になると考えています。

Q 留学生を採用する際に重視する点をお聞かせください。

やはり日本語で問題なくコミュニケーションがとれることです。日本語能力試験のグレードは問いませんが、当社で働く外国の方は、皆さんN1以上はお持ちです。あとは人間性ですね。外国の方は自己主張をしっかりと出来て素晴らしいのですが、素直に人の意見を聞ける柔軟性も持って欲しいと思います。

Q 外国人を採用したことがない企業では、離職されるリスクを不安視する声も多いのですが、離職対策として取り組んでいることはありますか？

社長直属の専門職社員として社長の下で日本のビジネスを学んでもらい、会社の期待が大きいことを伝えていきます。また、日本人ではニュアンスで分かることも、外国人の方には伝わらないことがありますから、些細なことも気軽に相談してもらえるように、日頃からコミュニケーションを積極的にとるようにしています。

Q 社長直属の専門職社員の雇用形態とは具体的にはどのようなものですか？

契約社員になります。正社員は異動やさまざまな拘束もあり研究・開発に集中できません。ですから正社員という縛りを外し、契約社員として専門性を極めてもらいたいと考えています。1年ごとの契約なので「簡単に契約解除されては困るから正社員にして欲しい」と強く希望する方もいました。当社もいつでも切れるとは当然考えていませんし、むしろ辞めて欲しくないのです。正社員として雇用することで好きな研究に没頭できないストレスから転職されるのが一番困ります。より高い付加価値を生む“成果”を出せば当然ながら年俸もベースアップし、そのアップ率は正社員とは比べものになりません。これらをしっかり説明すると納得してもらえました。こうした雇用形態は外国人だけでなく、優秀な専門技術を持っている日本人にも適用しています。今後、グローバル企業として世界で事業を展開していくのであれば、個人の才能を伸ばす多彩な働き方を積極的に取り入れる必要があると考えています。

〈会社プロフィール〉 横浜油脂工業株式会社
神奈川県横浜西区南浅間町1番地の1
1929年(昭和4年)創業 資本金1億円 従業員200人
<http://www.yof-linda.co.jp/>

外国人雇用サービスセンターの 取り組み紹介

全国4拠点で留学生を支援する外国人雇用サービスセンターが実施する
事業についての紹介をします。

30

外国人雇用サービスセンター

事業内容／インタビュー

【東京】 東京外国人雇用サービスセンター

東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル21階

電話：03-3588-8639

<http://tokyo-foreigner.jsite.mhlw.go.jp/>

【名古屋】 名古屋外国人雇用サービスセンター

愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル12階

電話：052-264-1901

<http://aichi-foreigner.jsite.mhlw.go.jp/>

【大阪】 大阪外国人雇用サービスセンター

大阪府大阪市北区角田町8-47 阪急グランドビル16階

電話：06-7709-9465

<http://osaka-foreigner.jsite.mhlw.go.jp/>

【福岡】 福岡新卒応援ハローワーク

福岡県福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラオフィスビル12階

電話：092-714-1556

<http://fukuoka-young.jsite.mhlw.go.jp/>

外国人雇用サービスセンター

日本での就労を希望する留学生や専門的・技術的分野の外国人に対し、専門的な職業相談・紹介を行うとともに、これら外国人を雇用する事業主等に対し雇用管理改善指導・援助等を行う機関として、東京、名古屋、大阪、福岡に外国人雇用サービスセンター（福岡は福岡新卒応援ハローワークという名称）を設置し、求人者、求職者双方に対するサービスを実施しています。

■ 外国人留学生に対する主な支援事業

〈各拠点共通実施事業〉

① 留学生就職支援ガイダンス

日本での就職活動の方法、在留資格変更と職業選択、就職活動のマナー、外国人雇用サービスセンターの利用方法等について説明するガイダンスを、通年開催しています。

ガイダンスでは、就職活動に関する情報をとりまとめた資料や在留資格変更手続きなどの資料を作成し配布しています。

② 留学生インターンシップ情報の提供

留学生の就業体験を目的とした、インターンシップを夏期休暇と春期休暇期間に実施しています。インターンシップ前にマナー講座などの事前教育を行い、5日間から2週間程度のインターンシップを実施しています。終了後は感想文の提出を義務づけています。

③ 求人情報の提供

ハローワークの求人情報から必要言語などの情報をもとに留学生の採用に積極的な求人を出力しファイルにまとめて留学生向け求人を提供しています。

④ 就職面接会

4月～11月の間に就職面接会を名古屋、大阪、福岡は年1回、東京は年3回開催しています。また、東京外国人雇用サービスセンターについては、別途小規模のミニ面接会を随時開催しています。



⑤ 留学生向け求人情報の提供・相談・紹介

全国のハローワークで受け付けた求人情報から外国人留学生や専門的・技術的分野の在留資格の外国人向け情報を当センターのパソコンで検索できるほか、さらに当センター独自に把握した利用者向け求人情報ファイルをご覧いただき、ご希望の求人事業所にご紹介しています。その際、在留資格の変更や継続について留意しながらご相談を行っています。担当制による個別相談で継続的な支援も実施しています。

〈各拠点独自の実施事業〉

【東京外国人雇用サービスセンター】

1. 東京外国人雇用サービスセンター活用ガイダンス

当センターの求人閲覧パソコン、求人ファイル、自宅のパソコンを利用した求人情報の探し方や履歴書などの応募書類の書き方のポイントなどの説明を行うガイダンスを本年度より毎月2回程度開催しています。

2. 書類対策セミナー

履歴書などの応募書類や自己PRの書き方や注意点、送付状やお礼状などの書き方、面接時の注意点などを説明するセミナーを毎月1回の頻度で通年開催しています。ガイダンスでは、書類対策、面接対策をとりまとめた資料を作成し配布しています。

3. 面接対策セミナー

面接におけるマナーや基礎知識を学習する座学と実際のシミュレーションを組み合わせたセミナーを、毎月1回の頻度で通年開催しています。

シミュレーションはグループに分かれて、応募者と面接官役を経験することで、他の応募者からの意見を聞き、他の応募者の面接を見ることで応募者同士評価することにより効果的に面接のノウハウを学ぶことができます。

4. 現役留学生の就職座談会

日本企業の内定を獲得した現役留学生を招聘して就職活動の体験談を苦労話なども併せて講演していただき、質疑応答なども行う座談会を開催しています。

5. 就職活動と在留資格に関するガイダンス

外国人留学生、在留資格特定活動で就職活動を進めている方、在職中で専門的・技術的分野の在留資格を持つ転職希望者を対象とした就職活動についての入国管理法上の注意事項を説明するガイダンスを毎月2回開催しています。

6. 出張ガイダンス

大学・専門学校からの依頼により、大学・専門学校内で行う出張ガイダンスを実施しています。主に関東圏の大学・専門学校を中心に、毎年約40～50校に出張して校内ガイダンスを実施しています。

【名古屋外国人雇用サービスセンター】

1. 留学生就職支援模擬面接

留学生が日本で就職活動において障壁となっている面接マナーや流れを理解する為、実際に面接の予定がある留学生を対象として模擬面接を実施しています。



通年で、毎週2回の頻度で事前予約制にて実施しています。

2. 留学生就職支援ビデオセミナー

留学生が日本の就職活動への理解を目的として、ビデオ視聴による情報提供を行っています。

6つのビデオ教材があり、当センターのビデオコーナーでいつでも視聴が可能となっています。

□面接はこれで合格! ~自分を最大限にアピールする~ (28分)
面接の重要性から、自分を最大限アピールするための注意点等を、模擬面接を通じわかりやすく解説します。

□必勝! 面接対策 (30分)
面接とは、会社がほしがいる人材、自己理解・職業理解チェック、面接の評定ポイント、質問チェック、面接の高等テクニック、必勝面接の秘訣等、面接対策全般についてわかりやすく解説します。

□社会人のマナー ~基本を知って自信をつけよう~ (44分)
服装、あいさつ、敬語の使い方から、電話のかけ方、名刺交換の仕方まで幅広い社会人としてのマナーを解説します。正しいマナーの基本を知ることにより自信をつけ、今後の面接や就職後に役立てましょう。

□自己分析 (26分)
自己分析を行うためのキャリアの棚卸しや、採用担当者が知りたいこと、自己理解を深めるためのポイント等就職活動の準備をわかりやすく解説します。

□履歴書と職務経歴書の作成方法 (41分)
応募書類の重要性、書き方及びポイント等を、履歴書や職務経歴書の記入例により解説します。

□企業の求める人材とは? (25分)
働く意味・目的から、企業が採用するにあたってのポイントや求める人材等をグラフ等により解説します。

【大阪外国人雇用サービスセンター】

1. インターンシップ協議会

インターンシップについては、「大阪ビジネス・インターンシップ支援協議会」を設置し、インターンシップの報告や留学生の動向を含めた意思統一を行っています。協議会は、大阪大学、大阪市立大学、大阪産業大学、関西大学、近畿大学、立命館大学、関西経済連合会、大阪商工会議所、日本学生支援機構及び当センターと大阪労働局によって構成されています。

2. 近畿ブロック大卒等就職フェアにおける就職ガイダンス・就職相談

大学等卒業予定者近畿ブロック就職フェアにおいて、就職活動の進め方や先輩留学生による就職活動の体験談を交えたアドバイスを行う就職ガイダンスを実施するとともに、「留学生就職相談コーナー」を設置し、個別相談も実施しています。

3. 大学内出張相談

大学内で実施される「合同企業説明会」において、新卒応援ハローワークと連携し就職相談ブースを設け留学生向け職業相談を実施しています。

4. 出張ガイダンス

大学からの依頼により、大学で行う出張ガイダンスを実施しています。また大学からの要請等に応じ個別相談も実施しています。

【福岡新卒応援ハローワーク】

1. 就活準備セミナー

導入編のガイダンスの後に就職活動の実践力を身につけることを目的とした5.6名のグループワークを中心とした就活準備セミナーを、今年度10月より月1回の頻度で開催しています。

内容としては、履歴書、エントリーシート等の書類の書き方、面接マナー、面接の対応等をテーマにして実施しています。



2. 模擬面接

面接におけるマナーや流れを学習する為、実際に面接の予定がある日本人学生を対象として模擬面接を実施しており、留学生の参加も受け付けています。

留学生については、1回目は模擬面接を見学し、面接の基本マナーや流れをつかんでいただき、2回目は実際に参加していただいています。

内容としては、履歴書又はエントリーシートを事前に提出していただき、職員が応募する企業に合わせた面接の設問を作成し面接のシミュレーションを行います。模擬面接についてもグループワークを中心に進めており、参加者同士が評価をすることにより、効果的に学習できるように工夫しています。模擬面接は、通年で週2回の頻度で実施しています。

3. 出張ガイダンス

大学からの依頼により、大学校内で行う出張ガイダンスを実施しています。さらに、職員を複数名派遣して、大学内の個別添削指導も実施しています。

インタビュー

外国人雇用サービスセンター



ハローワーク新宿
東京外国人雇用サービスセンター
室長
坂口 敏夫 氏

Q 東京外国人雇用サービスセンター設立の経緯や背景について教えてください。

平成5年10月に留学生及び専門的・技術的分野の外国人の就職支援を行う機関として「外国人雇用サービスセンター」が飯田橋所に設置されました。平成15年4月には「都内ハローワークの外国人雇用サービスコーナー」等を統合し、新たな拠点としてハローワーク新宿に「東京外国人雇用サービスセンター」として設置されました。

その後、世界的に進む高度人材獲得競争の中、産学連携の推進、海外現地機能の強化等、アジア人材ネットワークのハブ化を目指したアジアゲートウェイ構想や留学生30万人計画などの背景から、日本で働きたいという留学生が増えることも見込まれるようになってきました。このため、留学生及び専門的・技術的分野の外国人の就労支援を一層推進し、学生職業総合支援センターとの一体的運営を図るため、ハローワーク品川に「東京外国人雇用サービスセンター」が設置されました。平成24年には、大学生・留学生への就職支援機能の拡充強化を図ることを目的としつつ、東京新卒応援ハローワークとともに新宿に設置し事業展開を行っています。

Q どのような方へサービスを提供しているのでしょうか。

当センターで対象としているのは、日本での就職を希望する留学生と、専門的・技術的分野の在留資格を持っていて日本国内で転職を希望される方です。割合としては留学生の方が多くなっています。なお、専門的・技術的分野の在留資格で主なもの挙げますと、「人文知識・国際業務」「技術」「技能」の3種になります。

一方で、日本人の配偶者や定住者など就労に制限のない在留資格を持っている方の相談は、「新宿外国人雇用支援・指導センター」で行っています。また、新宿外国人雇用支援・指導センターでは、留学生のアルバイトについての相談も対応しています。

Q 面接会について詳しく教えてください。

留学生対象面接会については、平成24年度は延べ3回9日間開催しました。面接会では、学生は履歴書を持参し希望の企業の採用担当者と直接面接を受けることができます。

参加者は、基本的には関東圏の学生が多いのですが、北海道、東北地域、九州地域から参加する学生もいます。今年行われた面接会は延べ3,000名の留学生が全国から参加し、大変盛況でした。

一方で、参加する企業はハローワーク新宿管内の企業をはじめ主に首都圏から延べ100社に参加していただいております。

Q 留学生はどのようなサービスを求めて来所するのでしょうか。

留学生は、留学生の採用意欲を示す企業の求人情報と職員・相談員による就活のアドバイスを求めてきています。また、合同就職面接会とは別に、機動的に開催しているミニ面接会への参加者も増えています。さらに、セミナー関連では、新卒応援ハローワークが、10月から12月にかけて開催する就職活動準備セミナー（延べ約40回開催。自己分析、面接対策等）や毎週定期的に開催する各種セミナー（マナー講座等）への留学生の参加も増えています。そのほかに、留学生向けの「面接対策セミナー」「書類対策セミナー」や内定獲得者を招聘して「現役留学生の就職座談会」を開催していますが、実体験を聞くことができる「就職座談会」は好評で今後は、「面接対策セミナー」、「書類対策セミナー」とともに「就職座談会」の回数を増やしていくことも検討しています。

Q 各大学とはどのような連携を取られているのでしょうか。

大学との連携については、新卒応援ハローワークと合同で、年度当初に就職支援担当者会議を開催し、今年度は100校以上の大学から100数十人が出席しています。

また、新卒応援ハローワークのジョブサポーターが担当している大学に東京外国人雇用サービスセンターの職員・相談員が同行し、大学の留学生支援担当者や情報交換するとともに、留学生と面談を行うなどの支援を行っています。

さらに、留学生が日本の就職活動の理解を深めるための「外国人留学生就職ガイダンス」を毎月開催しているほか、毎年40~50校の大学から依頼を受け、大学内でのガイダンスも実施しています。

当センターの面接会等のイベント情報については、全国約700の大学等にメールマガジンで発信しています。

Q 最近の求人動向で特徴的なものはあるのでしょうか。

留学生に対する企業の採用意欲は高まってきています。以前は製造業の求人が多かったのですが、最近は他の多くの業界が東南アジアや東アジアへ進出していることから需要の広がりが見受けられ、必要言語などもベトナム、タイ、インドネシア、インド圏の言語などが増えています。規模的には、中小企業だけでなく、大企業や中堅企業の求人情報も多くなっています。進出先のマーケティング担当や幹部候補生としての採用を行っている企業が多くなっているようです。

高度外国人材の 日本企業就職支援事例集

■ 高度外国人材の日本企業就職促進プロジェクト事業

委託： 厚生労働省

受託： 株式会社オリジネーター

編集・制作： 株式会社フィールド

高度外国人材の 日本企業就職支援事例集

■ 高度外国人材の日本企業就職促進プロジェクト事業